

2016年6月9日発行

発行人 加藤種男

編集人 佐藤華名子 | 根本愛沙 | 伊藤こころ
坂本麻里絵 | 荻原康子

デザイン NDCグラフィックス

印刷 株式会社明祥



編集・発行 公益社団法人企業メセナ協議会

108-0014 東京都港区芝5-3-2 アイセビル8階

Tel.03-5439-4520 | Fax.03-5439-4521

GBFund検証チーム

チームリーダー

大澤真雄 | [株]ニッセイ基礎研究所

メンバー

小岩秀太郎 | [公社]全日本郷土芸能協会

佐藤友美 | トヨタ自動車[株]

白木里恵子 | 早稲田大学

野崎美樹 | 川崎市岡本太郎美術館

[公社]企業メセナ協議会

加藤種男 | 荻原康子

佐藤華名子 | 根本愛沙 | 伊藤こころ

公益社団法人企業メセナ協議会は、

企業や芸術・文化にかかわる団体・個人が集い、

芸術・文化の振興とこれを通じた

社会創造に取り組んでいます。

詳しい事業内容はWEBサイトをご覧ください。

www.mecenat.or.jp



平成28年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業

©企業メセナ協議会

本誌掲載記事の無断転用を禁じます。

GBFund

東日本大震災 芸術・文化による 復興支援ファンド 2011-2015


報告書

- 01 はじめに
 - 加藤種男 [公社]企業メセナ協議会 専務理事・GBFund選考委員

- 02 ◎ GBFund 基礎データ

- 04 ◎ 助成活動紹介 | 取材レポート

- 18 ◎ 百祭復興プロジェクト
 - 小岩秀太郎 [公社]全日本郷土芸能協会 事務局次長
百祭復興プロジェクト助成活動紹介 | 取材レポート

-  百祭復興プロジェクト 選考総評
 - 俵木 悟 成城大学 文芸学部 准教授 / GBFund選考委員
 - 船曳建夫 文化人類学者 / 東京大学名誉教授 / GBFund選考委員

- 28 ◎ 選考総評
 - 吉本光宏 [株]ニッセイ基礎研究所 研究理事 / [公社]企業メセナ協議会 理事・GBFund選考委員
 - 片山正夫 [公財]セゾン文化財団 常務理事 / [公社]企業メセナ協議会 理事・GBFund選考委員

- 30 ◎ GBFund事業検証について
 - 大澤寅雄 [株]ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員

アンケート調査結果

- 38 ◎ 寄付者インタビュー
 - 小曾根 真 ジャズピアニスト

- 39 寄付者一覧
- 42 助成活動一覧
- 48 あとがき
- 49 [公社]企業メセナ協議会 会員一覧

1 995年の阪神淡路大震災のときに、企業は社員のボランティア活動を初めて組織化したが、メセナ活動は必ずしも十分ではなかった。芸術・文化による復興支援に早く手をつけていれば、さらに多様な活動ができたろうに、という思いが残った。そこで、東日本大震災が起きたときに、芸術・文化を通じた復興支援の制度づくりを急いだ。

それが、この報告書にまとめた「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド(GBFund)」である。お陰様で多くの企業、文化団体、個人の篤志家のご寄付が集まり、2011年4月には助成金の配布を開始し、16年2月までに寄付金の総額は1億5,000万円を超え、250件の活動に助成金を送ることができた。ご支援いただいた皆さまには心からの感謝を申し述べたい。

現場からの声は、復興に向けての早い段階で、芸術・文化が精神的な支えとして機能したことを示している。特に顕著な声として、地域の伝統芸能の復活による「地域コミュニティ再生」への期待が大きかったということに、心を大きく揺さぶられた。伝統芸能や祭りが本質的に「心のよりどころ」という機能をもっており、それによって「個人や地域のアイデンティティの再確認」ができ、震災によって離散してしまった地域の人々が再び集う機会さえも創出した。

そこで、GBFundではその中の、特に郷土芸能や祭りを支援するための枠組みとして「百祭復興」を立ち上げ、間もなくその目標であった百件に到達するところまでできている。

ファンド設立5年の節目に、震災復興に果たした役割や効果、被災地および社会全体に与えた影響、これからの災害における芸術・文化の可能性等について検証をすることにした。その検証結果と、活動の5年間の報告が本書の骨子である。

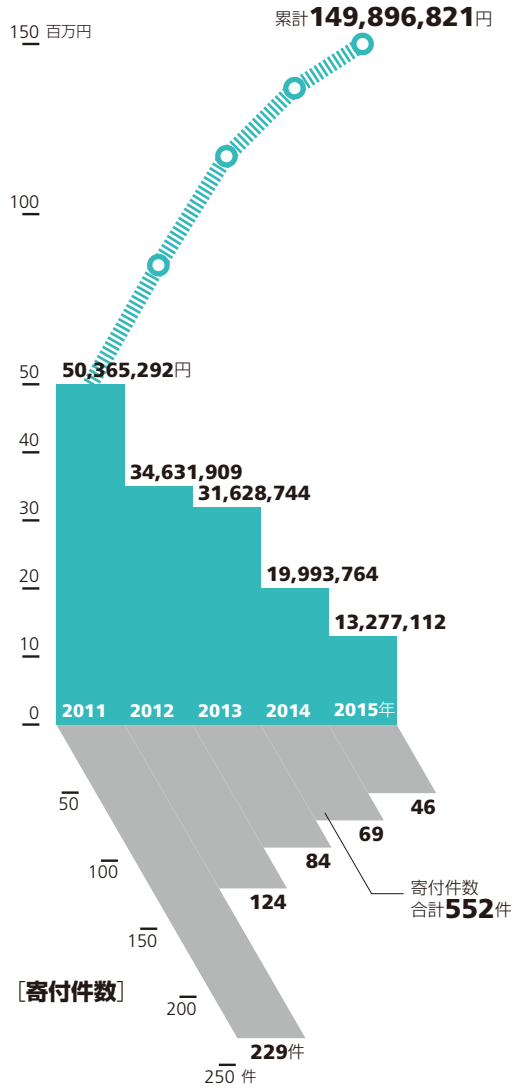
GBFundとは

東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」(G:芸術、B:文化、F:復興 / ファンド)は、2011年3月24日に設立。趣旨に賛同する方々から広く寄付を募り、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動への助成を行っている。

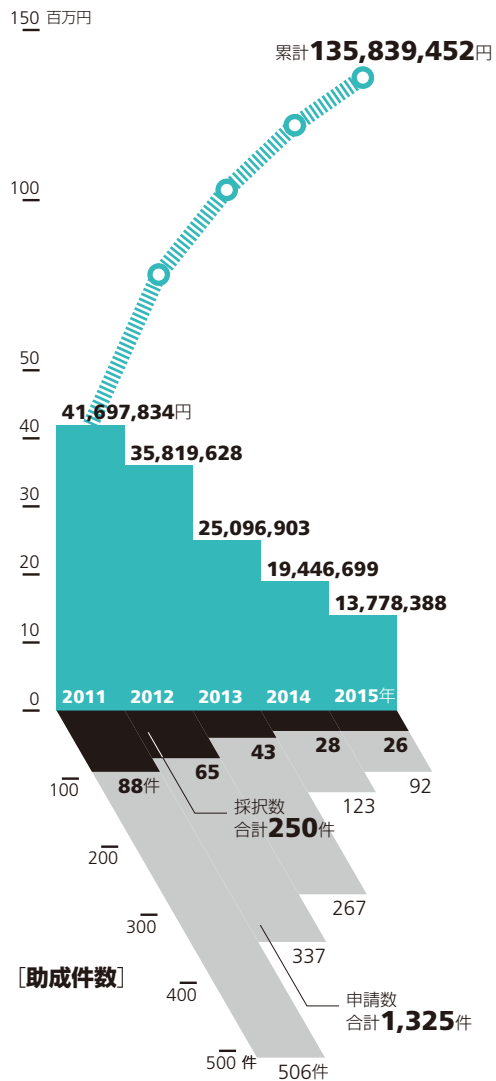


GBFund 基礎データ

[寄付金額]

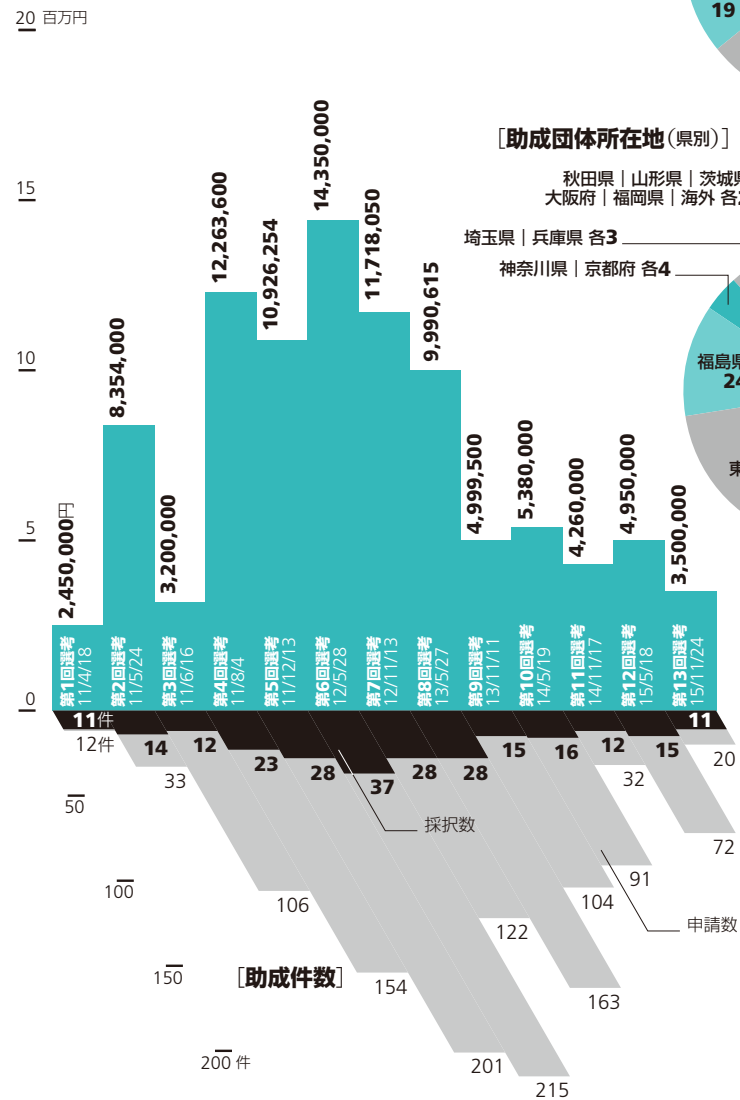


[助成金額]

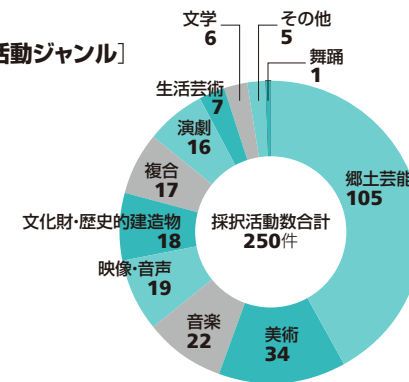


※各回選考委員会で決定した助成金額のほかに、採択後に受け入れた寄付先指定寄付金額(採択活動の中から特定の活動を指定した寄付)を含む。

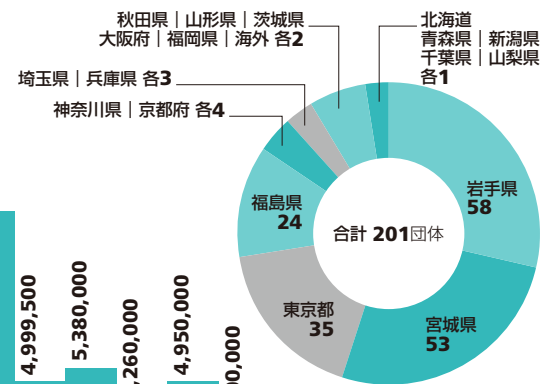
[活動採択時の助成決定額]



[採択活動ジャンル]



[助成団体所在地(県別)]





助成活動紹介



取材レポート……………[1]

- 活動名 **ITPいわき演劇プロジェクト俳優養成塾**
- 活動実施団体 ITP いわき演劇プロジェクト
- 実施期間 2014年11月22日～15年5月17日
- ジャンル 演劇
- 活動地域 福島県
- 取材日 2015年11月23日
- 活動概要 いわき市出身の演出家・高木達を講師に俳優養成ワークショップを行い、成果発表として公演を行う。キャスト、スタッフは未経験者も対象に一般公募する。震災を境に県外への自主避難などで地元の演劇人口が減少したことから、いわきのアマチュア演劇界の再興の足掛かりとする。



わきのアマチュア演劇界で活動し続けてきた竹田一行氏は、東日本大震災を境に県外に自主避難するなど、地元の演劇人口が減少する状況を目の当たりにして「このままではいわきに誰もいなくなってしまう」という危機感を抱いた。いわき市出身で劇団青年座の演出家を務める高木達氏と意気投合し、いわきのアマチュア演劇界の再興の足掛かりとするため、2011年5月にITPいわき演劇プロジェクト(以下「ITP」)を創設した。

「やってみよう、やらなければならない」という気持ちから、11年7月から8月にかけて開催した演劇祭がITPの最初の活動だった。13年9月には東京芸術劇場で「東の風が吹くとき」(作/演出・高木達)を上演、マスコミにも取り上げられ大きな反応があった。GBFundの助成活動では、高木氏を講師に俳優養成ワークショップを行い、その成果発表「時の物置」(作・永井愛/演出・高木達)を15年5月にいわき芸術文化交流館アリオス小劇場にて上演。稽古開始から公演が終了するまで、俳優は大きく成長し、観客が驚くほど変化を遂げた。

地元では、原発事故に端を発したさまざまな地域課題に対して、考え方や価値観の摩擦が浮上している。まち並みの表面は活力を回復したように見えていても、内実は震災の復興が終わったわけではない。「避難移住者や原発作業員などの人々と一緒に演劇に触れることで、共生の手立てを考えるきっかけになるのではないかと語るITP代表の竹田氏は、演劇を通して地域の実状を今後も発信し続けようとしている。

取材者
大澤寅雄

[株]ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員



「時の物置」の舞台風景



取材レポート……………[2]

活動名

- ① 歴史ある「^{けせん}気仙」の文化を継承する
「(仮称)気仙学校」のための教材テキストの開発
- ② 歴史ある「気仙」の文化を継承する
「(仮称)気仙職人学校」の伝統大工コースの試行
- ③ 歴史ある「気仙」の文化を継承する
「(仮称)気仙職人学校」の立ち上げをめざして
～「第2回気仙大工セミナー」の開催～

活動実施団体

[特非] 伝統木構造の会(①[一社]実践教育訓練研究協会)

実施期間

①2012年4月～13年3月 ②2014年6月～15年3月
③2015年6月1日～16年3月31日

ジャンル

文化財・歴史的建造物

活動地域

岩手県

取材日

2015年10月17日

活動概要

気仙地方に古くから伝わる「気仙大工」の文化を後世に伝えるため、「(仮称)気仙職人学校」の設立を目標に、2012年に教材テキスト『気仙大工概説』を作成し、次段階として14年より第1回気仙大工セミナーを開始。地域に伝わる文化の伝達と次世代育成のため、市民の共感を得ながら15年度も継続して第2回セミナーを実施した。

気

仙地域(岩手県沿岸部の陸前高田市、大船渡市、住田町)には、積極的に全国の現場で技術を高めながら、気仙地域に暮らし、「気仙大工」という伝統木構造の技を継承するシステムがあった。現在、この社会システムは失われているが、気仙大工の技や、信頼や誇りを活動の原理とする気質は、今も受け継がれている。本活動は、気仙大工の次世代育成を通して、地域の誇りを取り戻すものである。

気仙には、震災前から気仙大工を大切なものと誇りに思い、記録を続ける研究者や気仙大工がいる。震災を契機に、彼らと交友のあった東京の建築家らが「[特非] 伝統木構造の会 / 気仙応援プロジェクト」を立ち上げ、GBFundから過去3回の採択を受け、「(仮称)気仙職人学校」開設にむけた足掛かりを築いた。

具体的には、気仙大工の記録をわかりやすくまとめた、教材テキスト『気仙大工概説』を作成し、職人や関係者向けの第1回気仙大工セミナー(講演)、市民向けの第2回気仙大工セミナー(講演・意見交換・大工体験)を開催した。毎回、建築関係者・市民・子どもを含む30人以上が参加、「震災の津波や復興の嵩上げでまちの風景が一変し、私たちは多くを失った。そんな中でも自分たちの故郷に伝わる気仙大工を知ること、伝承することができる。これはおもしろい」「気仙大工をまちづくりのヒントにしたい」という声があがった。伝統文化の継承と次世代育成の機運醸成に向けて、木造建築を推奨する環境整備が必要だが、その一歩として、市民の共感を得ることができた。今後も継続して開催していく予定である。

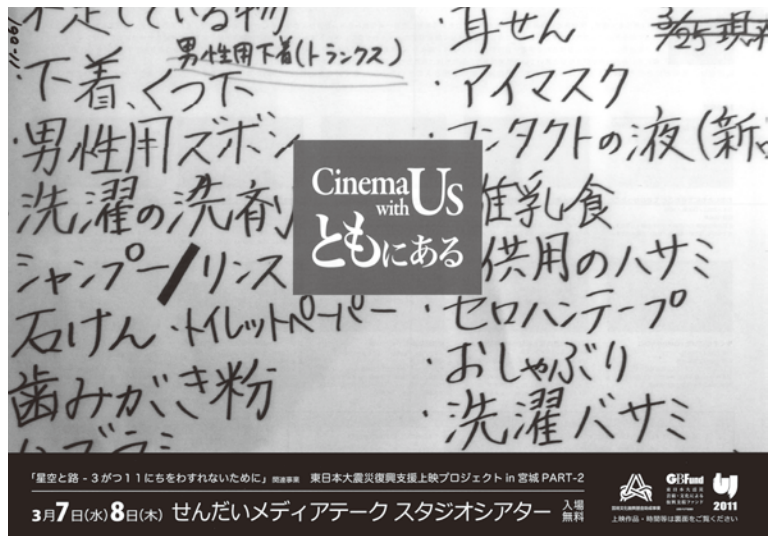
取材者

白木里恵子

早稲田大学創造理工学部 助教



大工の指導で気仙杉を削る子どもや市民



取材レポート……………[3]

「ともにある Cinema With Us」チラシ



活動名

- ① 東日本大震災復興支援上映プロジェクト
「ともにある Cinema With Us」
- ② 東日本大震災復興支援上映「ともにある Cinema With Us 2013」
- ③ YIDFF「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」プロジェクト
- ④ 「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」および
東日本大震災記録映画上映プロジェクト2015

活動実施団体

認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭

実施期間

- ①2011年10月～12年3月 ②2013年10月12日～10月14日
③2014年5月～15年3月 ④2015年5月19日～16年3月31日

ジャンル

映像・音声

活動地域

山形県

取材日

2015年10月12日

活動概要

1990年より始まった本映画祭は、2011年より東日本大震災復興ボランティア上映会を継続開催。14年には「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」を設立し東日本大震災に関する記録映画を収集・保存。WEB上にデータベースを構築し国内外に発信。恒常的にアーカイブを実施し、登録作品の上映会を開催している。

2 011年、被災地をとりまく現実を記録した映画作品の発表の場を創出し広く共有するため、同年開催の山形国際ドキュメンタリー映画祭にて東日本大震災復興支援上映プロジェクト「ともにある Cinema With Us」を立ち上げる。その後、15年の映画祭まで上映プログラムを継続的に実施。本プログラムを通して海外の映画祭における上映につながった作品もある。映画で被災地の現実を世界へ伝える役割は、国際映画祭の事務局として重要なミッションの一つだと考えている。

14年には、年々増える震災関連作品の応募と海外からの関心の高さを背景に、作品の収集・保存を目的とした「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」を開設する。作品とその情報を一元化することで国内外へ広く発信し、震災の記録を後世に伝えていくことを目指している。保存・登録された作品は特設WEBサイトから検索できるようになっており、国内外の研究者等からの利用や問い合わせが増えてきている。今後データベース登録を継続し、利用を拡大する態勢を整えていく必要があるが、震災より時間が経過する中で「震災と芸術・文化」を対象とした助成が減っており、財源の確保は大きな課題である。

今後も上映プログラム、アーカイブともに継続を予定している。また、近年増加している災害や、それに伴う「自然との付き合い方」を考えていくプログラムの実施を考えている。災害に関する映画の収集・解析・研究を通して災害の文化を継承していくことを目的とし、国内だけでなく災害の多い海外の国とも研究ネットワークを築いていく構想がある。

取材者

野崎美樹

川崎市岡本太郎美術館 普及企画担当



「ともにある2015」会場での質疑応答



取材レポート……………[4]

代表で職人の塚原英男氏

活動名 手すき和紙の新たな可能性の開発

活動実施団体 [一社] 潮紙うしおかみ

実施期間 2013年11月～14年5月／2015年6月1日～12月31日

ジャンル 文化財・歴史的建造物／生活芸術

活動地域 宮城県

取材日 2015年10月27日

活動概要 宮城県に400年伝わる紙漉きの技術を継承しながら、被災地の産業創出に取り組む。2013年の助成金では素材開発に取り組み、強度がある和紙のテストタイプ開発に成功。その次段階となった15年の助成金では、破けにくい特徴と手漉き和紙の風合いを活かし、新たなデザインによる商品開発に挑戦。時代に即した「使われる和紙」を目指している。



潮

紙による「手すき和紙の新たな可能性の開発」は、宮城県に400年伝承され、存続の危機にある手漉き和紙「柳生和紙」に新たな価値を付加した素材としてブランディングし、伝統工芸を次世代に継承していく試みである。

潮紙代表の塚原英男氏は、宮城県仙台市の障がい者施設の授産活動として紙漉きの指導を行っていたが、東日本大震災の津波により同施設が被災。同県七ヶ浜で支援活動に入っていた現副代表の久保田靖朗氏と、2012年から被災地での産業創出として紙漉き伝承に取り組んでいる。継承のためには新たなビジネスモデルが必要と考え、柳生和紙をアパレルや家具などの新素材「ベジタブルレザー」とすべく開発を行っている。宮城県内陸部の柴田郡笹谷地区に14年に工房を構え、テストタイプの開発、スペインでの展示会への出品を行い、現在、ヨーロッパでの商品化に向けて試作を行う。震災による塚原氏と久保田氏の出会いにより「すっという人間しかわからない価値、初めて来たからわかる価値を両輪として活動を行うことが可能となっています」。

商品開発、生産、営業などの体制構築や、地元仙台や笹谷地区での普及・定着などが今後の課題ではあるが、東京オリンピック開催の2020年に、震災から10年で復活した和紙の可能性として世界に発信することを目指している。

震災がなければ起こりえなかった「よそものと地元の人間の交流」が伝統文化を掘り起こし、発想の転換が引き起こされ、新たな可能性を見出したモデルケースの一つと考える。

取材者
佐藤友美

トヨタ自動車[株] 経営支援室



柳生和紙を素材としたジャケットを着た久保田靖朗氏



参加者による枕カバーづくり

取材レポート……………[5]

- 活動名 ①②③TohokuCraft
④TohokuCraft Hello!クラフトプロジェクト
- 活動実施団体 TohokuCraft
- 実施期間 ①2011年6月～12年3月 ②2012年4月～12月
③2013年5月～14年3月 ④2016年3月1日～10月31日
- ジャンル 生活芸術
- 活動地域 宮城県
- 取材日 2015年10月20日
- 活動概要 震災直後から被災地に赴き、参加者が自身の創造活動を通して
生きる活力をつかむことを応援する、手芸ワークショップなどを行う。
現地の方との信頼関係を大切にしながら、
新しい東北ブランドの誕生も目指す。
2016年は手紡ぎ毛糸のワークショップ、編み物の会と展示、
アーティスト・イン・レジデンス、活動報告会などに取り組む予定。



手

芸による日用品制作のワークショップを中心とする本活動は、ものづくりの経験が自分を
取り戻し、新たな力を得るプロセスとなつてほしいとの思いから、2011年5月に現代美術コー
ディネーターであるメンバー(西山裕子、福田幹、坂口千秋)によって始められた。東京から
石巻へ足を運ぶ中で、震災によって愛着ある生活用品を失うことは、持ち主自身のアイデンティティ
を喪失することであると知り、活動では参加者自身が素材を選び、好きなものを制作することを大切
にする。講師には203gowや神山ヒロユキといったアーティストやファッションデザイナーを迎え、枕
カバー、エプロン、バッグ、ニットをつくる会などを行ってきた。

避難所で始まった活動は、仮設住宅、市内の日和アートセンターへと場所を移し、アーティスト・イ
ン・レジデンスや展示会なども行った。活動で出会った地元の編み物の達人が次回の講師になり、さら
には他団体の活動に携わるようになる。参加者が独自にプログラムを企画・実施したり、講師たちが地
域とじかに繋がって新たな活動を行うなどの展開を見せている。

講師の一人である羊毛作家・吉田麻子氏との出会いは、地元牧場主との連携を実現し、100%石
巻産の毛糸の誕生を導いた。団体が当初から掲げる東北発の製品の構想もこれにより広がるが、事
業化には課題が多いほか、拠点の減少、活動資金の不足など今後に大きな不安を抱える。「今いえる
目標は、続けていくこと」だと西山氏は語る。見えないこれからの向き合いながら、人々との継続的な
交流と、その中に生まれてくるであろうTohokuCraftブランドの輪郭を探っている。

取材者
根本愛沙

[公社]企業メセナ協議会 プログラム・オフィサー



2014年3月18日～23日
日和艺术センター
吉田麻子+スサイタカコによる
展示会+糸紡ぎワークショップ
「モケモッコタツビヨリ2プチ!」

◎助成活動紹介

2012年8月13日、女川常夜灯「迎え火プロジェクト」にて、地元側で陣頭指揮を取ってくれた女川町復興連絡協議会のメンバー。左の岡裕彦は対話工房メンバー。彼らとの信頼関係と協働があり、対話工房の活動は実現している。



©toshe kusamoto

取材レポート……………[6]

活動名

- ①女川常夜灯「迎え火プロジェクト」女川国物語
- ②女川常夜灯
- ③女川常夜灯「迎え火プロジェクト」・女川国物語「うみやまさんぽ」他

活動実施団体

【一社】対話工房

実施期間

①2012年8月13日 ②2013年8月13日 ③2014年4月～15年3月

ジャンル

美術／複合

活動地域

宮城県

取材日

2015年8月15日

活動概要

津波により大半の市街地が流失した女川町。かつて建物があった敷地で、家族や友人らが小さな「火」を焚き、荒涼とした土地にちらちらと灯る火を囲み眺めることで、過去を想い、今日の命に感謝し、明日の命に生きる力に変えていくプロジェクト。2012年の開催以降、住民らの希望によりまちの新しい伝統・年中行事として、「100年以上続く伝統行事」にしていくことを目標に継続実施している。その後活動を広げ14年には5つの事業を展開。歩きながら自然の地形と歴史をあらためて知り、専門家の解説を交えながら再解釈、新たなまちづくりに過去の視点を活かす機会を創出する「うみやまさんぽ」のほか「キッチンカー仮設訪問支援伴走」「対話新聞発行」など、すべて地元住民との対話から生まれた事業を協同で実施した。



道

路がすべて分断されて、まち自体が陸の孤島となる被害を受けた女川町で、分断されたコミュニティ、孤立した住民に「しゃべる場所、癒しの場所」を生み出すために始まったプロジェクト。人々が鎮魂に集まるきっかけとしての「常夜灯」である。震災以前から建築家として女川に深くかかわっていた海子揮一氏が中心となって立ち上げた。場づくりの名手であるアーティストの小山田徹氏をはじめ、相澤久美氏（建築家／編集者／プロデューサー）などの幅広いネットワークを活かした協力が得られた。

震災直後に「焚き火」が担っていた、人が集まり、話し合い、ものごとを決めていくという機能を、ささやかながらも回復したことにより、いくつもの成果が生まれている。一番大きいのは、女川町復興連絡協議会を側面から支援する力になっていることであろう。

一度分断されてしまったコミュニティの再生、また孤立している人々の交流を日常的に回復することは、地元の人々自らが取り組まなければならない課題である。対話工房による「女川常夜灯」は、そのためのきっかけを用意した。女川町復興連絡協議会の発足は大きな力であるが、復興を含めた社会創造には長い年月がかかる。

応援団が幅広く、また、その幅広い人脈が、この地で再会する仕掛けになっており、同時に地元の声を徹底的に聞き、地元の人々に寄り添うという姿勢が明確で、その結集としての「女川国物語」というビジョンがあることに大きな期待が持てる。

取材者

加藤種男

【公社】企業メセナ協議会 専務理事



©hirohiko koyamada

2012年8月13日、かつて住んでいた敷地で住民らが小さな火を焚いた。この場で震災後初めて再会を果たしたご近所同士もいた。



藤田貴大(マームとジブシー主宰)のワークショップ

取材レポート……………[7]

- 活動名 I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり
- 活動実施団体 I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり実行委員会
- 実施期間 2013年2月1日～3日
- ジャンル 演劇
- 活動地域 福島県
- 取材日 2015年11月24日
- 活動概要 震災以降、衰退しつつあるいわきの演劇活動に歯止めをかけるべく、地域の文化交流館や高校演劇連盟と協力して演劇祭を企画。地域の劇団を対象とした短編演劇コンペティションを開催し、これまで活動の機会を失っていたいわきの演劇団体に上演の場を設ける。また東京の劇団も3団体招聘することで交流のきっかけをつくる。本イベントを起爆剤として、いわきの演劇関係団体や関係者の活動活性化につなげるねらい。



福

福島県いわき総合高校では、授業の中に「演劇」という科目を設定し、東京からプロの劇作家や俳優を招いて演劇教育に取り組んできた。いわき総合高校の演劇担当教員だった石井路子氏は、震災によって元気を失った地域のために、「とにかく何かしなきゃと思って」2012年に周囲のアーティストに呼び掛けて実行委員会を立ち上げ、13年2月に「I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり」を開催した。

実行委員会は、地元の劇団に元気になってもらおうとバラエティに富んだ出演者や多彩なプログラムを企画。福島県内の劇団による短編演劇のコンペティション、いわき総合高校演劇部の公演、そして東京からは青年団、ままごと、マームとジブシーといった、人気と実力を備えた3劇団が参加。公演だけでなく、演劇ワークショップやアフタートークを開催した。東京、新潟、大阪など全国から集まった観客が客席を埋め、地域内外の演劇人との交流が生まれた。14年3月に「地域再生」をテーマに掲げた第2回のI-Play Fesを開催。劇場だけでなく、ライブハウス、レストラン、アートスタジオでプログラムを展開し、地域の人々を巻き込み、中学生や高校生が運営した。

「教育は未来をつくる仕事だ」という石井氏は、被災地だけが演劇を必要としているわけではないと意を決し、14年4月、いわき総合高校から大阪府にある私立の高校に移った。「演劇を教育の中にどれだけ定着させるのか、勝負したい。国の教育を変えたいと思っている」と石井氏は語る。

取材者
大澤寅雄

[株]ニッセイ基礎研究所 社会研究部 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員



活動のチラシ



百祭復興 プロジェクト

百祭復興

こいわ・しゅうたろう

1977年岩手県一関市生まれ。小学校時代、地元の郷土芸能「行山流舞川鹿子躍」(ぎょうざんりゅうまいかわしおどり)を始める。上京し、郷土芸能のネットワーク組織「公社」全日本郷土芸能協会に入職。風土や人、くらしや食が絡み合う郷土芸能の奥深さ、大切さを伝えるため、企画・提案を行っている。東日本大震災後は被災芸能情報収集や支援に携わる。

小岩秀太郎

[公社]全日本郷土芸能協会 事務局次長

東日本大震災発災直後から、多くの人や物を消失した被災地で、ある動きが見え始めた。「祭り」「郷土芸能」を再開させたいという動き。日本全国が自粛ムード真っ只中なのである。震災から100日目の百か日法要や盆供養に芸能を再開し演じることは、東北人にとっては切実なものだった。幾度も災害に見舞われてきた東北地方では、生き残った人、亡くなった人双方の気持ちを慰め、かつ日常生活をいち早く取り戻すための知恵や術が集約された装置として、祭りや芸能が行われてきたところが多分にある。だから東北には、圧倒的な数と種類の祭り・芸能が脈々と伝えられ、それぞれが地域・風土のアイデンティティを代表したものとして存在し、住民をつなぎ、コミュニティを支えてきた。

実際2011年6月頃から、GBFundに対し、祭りや芸能の再開に関する活動の申請が続々と寄せられるようになった。当初、当ファンドは「芸術・文化」活動による復興を念頭に置いており、芸能や祭りは想定外だった。しかし、被災地の人々にとっては無くしてはならない、れっきとした地域固有の「文化」活動であり、鎮魂供養の役割を担いながらも、人を集わせ、喜ばせ、またその音楽や激しい踊り、独特のセンスでつくり伝えられてきた衣装や道具は「芸術」的ともいえるもので、なんらGBFundのコンセプトとかけ離れたものではなかったのだ。簡易な申請手続きと事務局の丁寧な対応が口コミを呼び、その要望は日に日に高まっていった。12年3月「百祭復興」という名称を掲げて広く募集を開始、日米交流団体のジャパン・ソサエティーからの寄付も追い風となった。

申請書には「祭りをなんとか続けたい」という切実な訴えが、不慣れながらも真摯につづられていた。このために人々は集い語り合い、地域のありようを再確認する作業を何度重ねたのだろう。祭りや郷土芸能がどれほど地域や人々と密接に結びついてきたのか、初めて目を見開かされた思いであった。

また、祭りや芸能を伝承してきた当事者側からすれば、おらが村の大切な「文化財」を保護し、失くさぬよう努力してきたが、閉じられた世界で一向に変わらぬ後継者不足や過疎化に悩まされていた。しかし、百祭復興やGBFundとの出会いで、「芸術・文化」サイドの人らとの新たなネットワークと視点が提供された。これにより生まれた、当事者たちがこれまで持ちえなかった発想を持つ多彩な活動も、百祭復興プロジェクトの特筆すべき点であろう。

◎百祭復興プロジェクト

助成活動紹介



TSUMUGUプロジェクト〜じゃんがらを紡ぐ〜

下高久地区「獅子舞」映像化プロジェクト

下高久地区「獅子舞祭礼」映像化プロジェクト

TSUMUGUプロジェクト実行委員会 [福島県いわき市]



TSUMUGUプロジェクトは、GBFund立ち上げ当初から3度採択されている。いずれの活動もいわき市の一地域の郷土芸能・祭礼にフォーカスを当てているが、これまで「文化財」=「古くさいもの」という視点でのみ捉えられ、かかわりが持ちにくかった芸能・祭りに、映像という他者的視点でアプローチするという投げかけをし続けているのが特徴的である。プロジェクトの中心である企画・実行委員は地元住民だ。これまで芸能・祭りの「意味」などを問う／問われることなくただ淡々と継承してきたが、今それを映像記録というかたちで地元住民の中であえて投げかけを行うことは一つの挑戦である。地域や芸能が絶えず抱えている将来性や継承への課題と希望を浮き彫りにしたプロジェクトだ。



大槌・向川原虎舞

復興プロジェクト

向川原虎舞風虎会 [岩手県上閉伊郡大槌町]



大槌町には多種多様な郷土芸能が伝えられているが、本団体はGBFundをはじめインターネット上の支援情報をキャッチし、いち早く復活を遂げた。復興の過程で、虎舞再開に欠かせない半纏を染める職人との出会いや、虎舞の演者の生き方などのストーリーが、マスコミやネット上で積極的に取り上げられた。このことは、当地の一握りの人しかかかわっていないと思われていた芸能に、実はさまざまな世代、立場の人が絡み合っていることを明らかにした。さらに若者たちによる圧倒的なパフォーマンスは、郷土芸能に対する一般的なイメージを覆したといえる。また、虎舞の稽古や祭りを通して集まる機会を積極的につくり、その場がそのまま地域、ひいては町全体の将来を考える場になっていった。郷土芸能が地域の復興再生の力になった好例でもある。



おむろなんぶかくら
「大室南部神楽保存会」
再生及び伝承

大室南部神楽保存会 [宮城県石巻市]

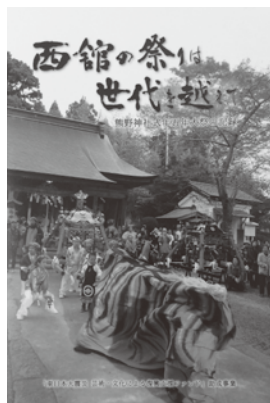


震災ですべての道具と指導者をなくしたが、幼少期に神楽を習っていた地元出身の青年たちによる申請でGBFundの助成を受け、復興活動を開始した。地域住民や出身者のみならず、震災ボランティア、さらにはブログやSNSといったインターネットによる情報発信で募った賛同者とともに、特徴的な衣装の伝統美・機能美に触れてもらいながら一から製作していくという取り組み。一握りの地域と人しか携われないと思われていた郷土芸能への新たななかかわり方を示した。衣装の縫製や寄付者の名前を幕に入れることで自分事にしてもらい、継続的に地域にかかわってもらう仕組みも提示している。企業メセナ協議会の名前も神楽幕に染め出されており、大室の神楽が演じられるたびにその名は発信され続けていく。



にしだて
西館の郷土芸能の継承に向けた
住民による記録冊子の製作活動

西館公民館 [岩手県大船渡市]

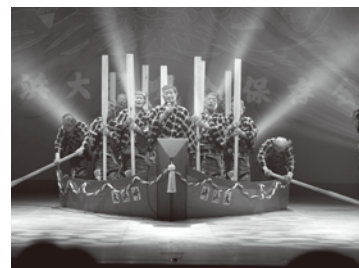


「百祭復興」は、郷土芸能・祭りの道具などを整備し再開する活動がその大半を占めていたため、主として芸能当事者による活動が対象となっていたが、この活動は地域住民皆で、芸能・祭りに紐づく記憶や記録・ノウハウを、公民館の代わりになった仮設住宅談話室に持ち寄り、編集し、冊子をつくっていくものであった。専門的になりがちな郷土芸能の記録は、少数の関係者によって私有化され、活用されないことが多い。しかしこの冊子は地域住民自ら作成することで思い入れのあるものとなり、地域住民のみならず故郷を離れた人々への還元までを目的とした、丁寧な聞き取りと編集が行われた。時間が経過しても、この冊子を囲み、皆で思い出話を共有したり、郷土芸能の継承はもちろん、震災の記録を語り継ぐ媒体としても貴重な1冊であり、震災から地域が復興していく過程が詰め込まれた活動であったといえよう。



郷土芸能劇
～唐桑ものがたり～上演

からくわたいりょうたいこみ
唐桑大漁唄込復活推進実行委員会 [宮城県気仙沼市]



郷土芸能が芸術分野と接触したGBFundらしい活動である。そもそも郷土芸能は地域住民の暮らしに根ざして生まれた活動であり、その時代ごとに地域住民の要望を受けとめながらかたちを変えてきたものであった。震災後、唐桑地方はかつてのように漁師だけで生計を立てたり、その生業だけで地域経済を動かしていくことは困難になった。震災を契機に再確認した唐桑地方の価値や、人々の繋がり、絆といったものを「郷土芸能」に託し、さらには地域住民の共通の記憶である「大漁唄込」という郷土芸能をテーマとした劇を皆で創作し発表するという発展性がある作業は、暮らしに根ざした郷土芸能の本義に近づくものである。また、創作にあたり4地域の郷土芸能団体が団結したそうだが、震災前後からとかく弱体化しがちだった地方を盛り立てるために、郷土芸能という地域共通の文化を活用したことは、新しい試みであろう。



盆踊りによる絆の再生と
伝統文化の次世代継承事業

[特非] まちづくりNPO新町なみえ [福島県双葉郡浪江町]



2006年、長らく途絶えていた地域の盆踊りを復活させたが、東日本大震災では津波被害だけでなく、原発事故によって全住民が避難を余儀なくされた。郷土芸能は、地域コミュニティの復興と再生への持続的エネルギーにつながるものと「百祭復興」はうたう。しかし、帰還の目途が立たない原発被害地域である浪江町では、郷土芸能が地域の名称と避難住民の故郷への気持ちをつなぎ留め、絆を再確認するための重要なものとして取り上げられるようになり、避難先でも子どもたちはじめ次世代への継承活動を熱心に行っている。土地を離れた芸能が「郷土芸能」たりえるのか、郷土芸能にかかわることで出身者と故郷が再びつながることができるのか、都市に大勢いる地方出身者の今後のあり方を考えるうえで、原発地域の郷土芸能を通して重要なヒントが見える気がする。

文責：小岩秀太郎



金津流浦浜獅子躍演舞



取材レポート……………[8]

活動名 **東日本大震災 被災郷土芸能復興プロジェクト**
in大船渡・越喜来

活動実施団体

うらはまねんぶつげんばい かなつりゅううらはましおどり
浦浜念仏剣舞保存会・金津流浦浜獅子躍保存会

実施期間

2011年6月18日～8月16日

ジャンル

郷土芸能

活動地域

岩手県

取材日

2015年10月16日

活動概要

大震災の津波被害で、岩手県大船渡市三陸町越喜来地区の浦浜念仏剣舞保存会、金津流浦浜獅子躍保存会の活動拠点である合同詰所が全壊し、道具や太鼓の多くが流失・破損した。「鎮魂」を根底に地域の先達から継承してきた両郷土芸能の意義を再確認し、道具・装束を再整備、稽古を再開し、お盆に鎮魂と復興を祈る公演を目指す。



活

動拠点は全壊し、道具や装束は津波で流失した。発災から4月までメンバー同士は会えない日が続き、完全に活動を休止せざるをえなかった。しばらくすると「面を見つけた」「刀が出てきた」という声が聞かれ、壊れた太鼓が打ち上がり、外からの支援の話が舞い込んでくるなど、さまざまな情報が飛び交うようになり徐々に動き始めたが、それまでには時間を要した。

5月に全日本郷土芸能協会からGBFundの話を紹介された。助成金申請が後押しにもなり、8月のお盆に向け一歩を踏み出した。剣舞・獅子躍とも、鎮魂供養の郷土芸能として、越喜来浦浜地域になくてはならない存在である。多くを失った人々にとって「日常」は、生きる目標となり、活力となる。そのために「いつも通りのお盆」で、震災で亡くなった方々を供養することが、復興のプロセスに必要不可欠であった。採択後、GBFundの助成金を使い、お盆で踊ることができる最低限の装束と道具の一部を購入した。

取材時には採択から4年半が経過していた。新盆を終えた後、次々と立ち上がる震災復興支援のための助成金にトライしながら独自で寄付集めを行い、4年後には3,200万円の資金調達を成し遂げ、道具の保管や稽古場など多くの役割を果たすことになる活動拠点「浦浜芸能伝承館」を完成させた。会長の古水力氏は、大船渡市郷土芸能協会の副会長でもある。まちの郷土芸能復興のために、今も奔走し続けている。

取材者

佐藤華名子

[公社]企業メセナ協議会 プログラム・オフィサー



GBFund助成金で購入された念仏剣舞の頭にかぶる毛ザイ



秋田市竿燈会



取材レポート……………[9]

活動名 **東北と世界を結ぶ祭博2015**
——大船渡復興東北三大まつり

活動実施団体 [一社]三陸国際交流協会
 実施期間 2015年9月4日～27日
 ジャンル 郷土芸能
 活動地域 岩手県
 取材日 2015年10月17日～18日
 活動概要 東北6県から全国的に著名な祭りを招聘し、市民に大きな活力と勇気を与える「大船渡復興・東北三大まつり」を2011年9月から毎年実施。15年は東北の郷土芸能を文化的観光資源として捉え、国際交流を含んだ発信を企画し、若者の地域離れや経済の衰退、住居不足などの地域課題の解決につなげていく。復興に向け、東京オリンピック開催年には集客目標20万人を目指す。



被

災した市民の心を奮い立たせることを目的に、前大船渡市長である甘竹勝郎氏を中心としたメンバーが2011年9月、盛岡さんさ踊り、青森ねぶた、秋田竿燈を招聘して祭りを開催し、以降毎年継続してきた。当該活動はその5回目にあたる。

舞台となるのは盛駅前の県道で、200席の観覧席のほか、立ち見客が沿道を埋める。今年の出演は秋田竿燈まつり、盛岡さんさ踊り、山形花笠踊り、仙台すずめ踊り、白澤鹿子踊り(大槌)、門中組虎舞(大船渡)、東京の現代舞踊グループによる創作鹿神楽、韓国のトブロン農楽団の計8団体で、約3時間、各組が代わる代わる演舞を披露した。

「東京オリンピック開催年に世界的にスタンダードな祭博とする」という目標を掲げ、15年は「三陸国際芸術祭」や大船渡市郷土芸能協会による「黄金けせん!民俗芸能大祭」と連携して開催した。被災後に海外からも多くの支援を受けたことから、祭りによって大船渡の元気な姿を世界へ発信したいという。

また、祭りの開催によって、商店街が夜道を明るくするための街灯の整備を進めるなど、市民のまちづくりへの意識にも変化が生まれている。

甘竹氏は「GBFundは小規模な祭りを多く支援しているが、大きな祭りも支援してほしい。大きな祭りには大勢の心を動かす力がある」と語った。祭りを1カ所に集めるため多額の費用がかかることが課題であるが、会場の熱気から祭りの「力」と継続の必然性が感じられた。

取材者
伊藤こころ

[公社]企業メセナ協議会 プログラム・オフィサー



白澤鹿子踊保存会

選考総評

俵木 悟

成城大学 文芸学部 准教授／GBFund選考委員

示

東日本大震災の後の数年間ほど、地域で伝えられてきた祭りや芸能の持つ力を認識させられたことはない。伝統的に受け継がれてきた祭りや芸能は、それ自体は新しいものを生み出す創造的な活動とは見なされてこなかったかもしれない。しかしGBFundの百祭復興の選考を通して、これまで当たり前が続けてきたことを復興させるといことが、さまざまな工夫を凝らし、人のつながりを生み出し、豊かな感興を喚び起こす、広い意味での創造行為なのだということ強く印象づけられた。百祭復興への支援の申請は、失われた道具や衣裳などの修理・新調といったものが多く、実際にもそのように継承に必要な慎ましい要望を積極的に支援対象に選んできた。そうした地道な活動こそが、震災後の生活に新たな価値を生み出す地域の芸術・文化活動の最も根源的な部分を支えているのだということ、選考結果を通してアピールできたのではないかと。● しかしながら、被災した人々の住居の移転や生業の再建などは、今ようやく道が拓けてきたといったところである。これまでの応急的な支援から、どうやって新しい暮らしの中に復活した祭りや芸能の芽を根付かせるかという、より大きな課題に目を向ける必要が出てくるだろう。この復興の新しいフェーズにおいて、まだまだGBFundに期待される役割は大きい。とりわけ祭りや芸能は一時の盛況だけでなく、何年も、何世代にもわたって継承される中で形成されてきたものである。それが何か特別なことではなく、いつも決まって催される「当たり前」のものになったとき、はじめて本当の意味で復興したといえるのだろう。その足場固めに、GBFundの支援が少しでも役に立つよう、これからも息の長い活動が行われることを期待している。

ひょうき・さとる

1999年千葉大学大学院社会文化科学研究科博士課程修了。2002年1月から11年3月まで[独]国立文化財機構東京文化財研究所に研究員として勤務。11年4月より現職。専門は民俗学、民俗芸能研究。芸能伝承の民俗学的研究とともに、ユネスコ無形文化遺産保護条約や国内の文化財保護法など、民俗文化を保護する行政的取り組みに関する研究も行っている。



復興なみえ町十日市祭
伝統文化継承事業
浪江町商工会[福島県]

示

数字にすら気持ちが込められている

船曳建夫

文化人類学者／東京大学 名誉教授／GBFund選考委員

ふなびき・たけお

1948年東京生まれ。東京大学教養学部教養学科卒業後、ケンブリッジ大学大学院にて人類学博士号取得。1983年東京大学教養学部講師、96年同教授、2012年定年退官し同名誉教授。専門の関心は、人間の自然性と文化性の相互干渉、儀礼と演劇の表現と仕組み、近代化の過程で起こる文化と社会の変化。編著書に、「知の技法」、「日本人論」再考、「LIVING FIELD」。

百祭復興に応募された祭りや芸能の活動について、私が持った印象を一言で表せば、「切実」であった。もとより、儀礼や芸能について研究していて、それらの持つ意味を百祭復興の企画案に、「伝統的なコミュニティの中で、祭りとそこで演じられる民俗芸能は、イエとイエを結び絆をつなぎ止める、『杭』のような役割を果たしていた」と書いた。それはこれまでに実地にくつか知っている祭りの事例からの、理論的な解説であった。しかし、地震と津波がやってきて、揺すぶられた東北のコミュニティから吹き出るようにして露わになった祭りを通じての人と人の結びつき、その積み重ね、というものが、これほどまでに切実な現実であったか、ということにはあらためて胸を突かれた。● もしかするとそのことは、当のコミュニティの人たちにも同じだったかもしれない。平時には、そこに住んでいる方々にはそうした祭りや芸能は、私たちが観光で訪れるような格別のにぎわいを見せる祭りとは異なり、毎年の拝礼でありすでに幾度となく目にしている踊りであって、直接に運営に携わったり、年回りや人生の節目によって家族の誰かが何かの役割を担えば別のこと、遠くに祭りの笛の音を聞くだけで、ふだんの暮らしの中でやり過ごすこともあったろう。しかし、震災のあとでは、祭りも芸能も特別の意味と色彩を帯びた。● 選考にあたり申請書を読みながら涙が流れてしまう、といったことは、今までしたことのある研究審査とは、まったく種類の違うものだった。書類の底には願う気持ちがあり、それが具体的な獅子頭や衣装とじかにつながり、申請金額が示される。その数字にすら、申請者の気持ちが感じられる、というようなことは、稀なことだと思った。私は選考委員をさせていただいたことに、ただ感謝をしている。



堂田薬師大尊祭を
存続する会
権仲青年会[福島県]



文化による復興——被災地から日本全土へ

吉本光宏

[株]ニッセイ基礎研究所 研究理事 / [公社]企業メセナ協議会 理事・GBFund選考委員

津波ですっかり人家がなくなり、人影のない海岸沿いを歩いていると、遠くから締太鼓が聞こえてくる。2015年9月、三陸国際芸術祭の連携プログラム「大槌まつり」を訪れた時のことだ。12年9月にもGBFundで視察した岩手県大槌町のお祭りである。あれから3年、がれきの山は撤去され、地盤の高上げ工事が進む。が、かつてそこにあったはずの家並みはなく、依然として茫漠とした景色が広がっている。● やがて締太鼓が近づいてくる。音の主は虎舞の一行だった。町を練り歩き、大槌稻荷神社へのお御輿の奉納に合わせ、勇壮な舞やお囃子を納める。大槌町の郷土芸能にはGBFundも支援を行った。● 東日本大震災は甚大な被害をもたらしたが、東北の芸能の豊穡さと、それが地域にとってかけがえのないものであることを気づかせてくれた。震災から4年半、大槌町でその思いを新たにしたい。● 最近では、アートプロジェクトや芸術祭など、文化による地域創生に注目が集まる。それらは明治以降の西洋起源の文化や芸術の延長線上にあるものだろう。しかし日本では、数百年も前から芸能や祭りは地域になくてはならない存在だった。● もちろん現代のアーティストたちも震災復興に奔走した。その集積が5年間で約250件、GBFundが支援してきた活動である。それらを俯瞰すると、西洋起源の芸術も、日本の伝統文化も、区別なく大震災と向き合い、果敢な取り組みを行ってきたことがわかる。そしてアンケートに寄せられた膨大な自由記述は、それぞれの活動団体のこれからの決意表明のように読み取れる。● 東日本大震災は、地域社会における芸術や文化のあり様に大きな変化をもたらそうとしている。芸術・文化による復興。被災地ばかりか日本全土がそれを希求していると思えてならない。

よしもと・みつひろ

1958年徳島県生まれ。文化施設開発やアートワーク計画のコンサルタントとして活躍する他、文化政策、創造都市、オリンピックと文化などに関する調査研究に取り組む。現在、文化審議会文化政策部会委員、東京芸術文化評議会評議員。著書に「文化からの復興—市民と震災といわきアリオスと」など。



小釜神社例大祭
城山虎舞[岩手県]

「内面の復興」これからも

片山正夫

[公財]セゾン文化財団 常務理事 / [公社]企業メセナ協議会 理事・GBFund選考委員

私は芸術・文化への助成活動に長く携わってきたが、GBFundの選考は特別な経験であった。震災直後に寄せられた申請書には、祭りに必要なものが津波で流されてしまった、支援してほしいと、手書きの文字でたった数行つづられていた。日ごろ目にして「仕事として書かれた」申請書とは違った、なまなましい切迫感がそこにはあった。これを目にしたとたん、「目的に沿って、最も優れた案件を見極める」という、ふだん助成選考にあたって自分に課している心構えはどこかに消し飛んでしまい、寄せられたすべてを採択してもよいのではないかとさえ本気で思った。それが私にとってのGBFundの原点である。● あれから5年が経ち、これまでに助成した活動は実に多岐にわたるものとなった。施設の応急的な修復や、癒しを求めるアートイベントから、少しずつ、語り継ぎ、アーカイブ化し、文化をテコに地域を再構築していこうとする活動が多く見られるようになった。他地域との交流も、神戸など他の被災地から、海外へと拡がっていった。震災前に戻すだけではなく、地域資源を活用して新たな事業を開発していこうとする未来志向の試みには、こちらも勇気づけられる思いがした。● 被災地の復興は、そのスピードの遅さがつとに指摘されている。たしかに道路などのインフラや住居、これらを含めた生活基盤の復興は迅速に進められるべきだし、スピードも速ければ速いほどよい。だが人間の「内面の復興」は、そんなに速くは進められない面もある。むしろ時間がかかって当然なのだ。その意味では、文化やアートの本領発揮はこれからだとさえいえる。GBFundの蒔いた種が、次のステージにつながっていくことを願わずにはいられない。

かたやま・まさお

1958年兵庫県生まれ。[株]西武百貨店を経て1989年、セゾン文化財団事務局長に就任。2003年より現職。立教大学大学院特任教授等を歴任。[公財]公益法人協会、[公財]助成財団センター理事、東京都芸術文化評議会専門委員。著書に「セゾン文化財団の挑戦」など。



撮影・蓮沼昌宏

「国民投票プロジェクト」
東北ツアー
Port B[埼玉県]



GBFund

事業検証に

ついて

おおさわ・とらお

1970年生まれ。慶應義塾大学卒業後、劇場コンサルタントとして公共ホール・劇場の管理運営計画や開館準備業務に携わる。現職のほか、NPO法人STスポット横浜監事、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー、アサヒ・アート・フェスティバル検証作業リーダーを務める。共著『これからのアートマネジメント"ソーシャル・シェア"への道』『文化からの復興—市民と震災といわきアリオスと』。

大澤寅雄

[株]ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員
GBFund検証チームリーダー

東日本大震災の発生から13日後、2011年3月24日に創設された「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド(GBFund)」。5年が経過し、GBFundが震災復興に果たした役割や効果、与えた影響、これからの災害における芸術・文化の可能性などの検証を行った。

1. 検証方法

検証作業は、以下のような方法と手順で行った。

【活動実施報告書の読み解き】第12回の選考(2015年5月)までの採択活動の活動実施報告書の記載内容を読み解いた。成果をうかがわせるキーワードを抽出し、震災からの経過時間、成果の影響範囲を軸にして整理し、GBFund全体の傾向を概観した。

【アンケート調査】採択団体を対象にアンケート調査を実施した。回答数は180団体(回答率92.3%)。質問内容は、申請の動機、事務局の対応、活用した費目、現在の活動状況、今後の活動の見込み、震災復興や災害における芸術・文化の可能性など。

【ヒアリング調査】アンケート回答団体から、調査対象地域や活動分野のバランスに配慮し、現地でのヒアリング調査の対象として9団体を抽出。検証メンバーが取材を実施し、申請の動機、活動の成果、実施後の課題、今後の展望についてレポートを作成した。

2. 考察

ここでは、GBFundの5年間の実績を「ロジックモデル」の考え方に基づいて整理する。ロジックモデルとは、事業の最終的な成果を評価するための理論的なフレームワークで、目的や目標の達成に至るまでを5つの要素に分解して明らかにするものである。具体的には、投入(Input)、工程(Process)、結果(Output)、成果(Outcome)、波及効果(Impact)の5つの要素によって構成される。

5つに分けられた要素に基づいてGBFundの実績を考察する。

●……「投入」で評価すべき点は、寄付金額である。設立当初1億円の寄付の

目標額を上回る約1億5,000万円が550件の企業・団体・個人から寄せられたことは、文化政策やメセナの歴史の中でも、画期的な出来事といっても過言ではない。

●……「工程」では、公募、申請受付、採択活動団体との連絡調整などの企業メセナ協議会の事務局対応に着目したい。検証アンケートでは99.4%が事務局対応に肯定的な評価をした。手続きの簡易さ、迅速さ、柔軟性だけでなく、申請者の思いに寄り添う事務局担当者の誠実さに、多くの回答が感謝や賛意を示している。

●……「結果」として、5年間で250件の採択活動があった。そのうち105件(42.0%)が郷土芸能の採択だったことから、郷土芸能が復興に果たす役割の大きさを提示したといえるだろう。

●……「成果」として、初期段階では、芸術・文化が震災で傷ついた個人の精神的内面の支えとなった。その後、人と人のかかわりを媒介する力を発揮し、地域コミュニティの維持や再生につながった。中長期の成果として、地域文化の担い手となる若い人材の育成や次世代への継承が促されたことが挙げられる。

●……「波及効果」では、東日本大震災の被災地の現実を、芸術・文化を通して国内外に発信したことや、被災地の芸術・文化活動に新しいネットワーク、新しい試み、新たな活動の展開が生まれ、活動の持続可能性に貢献したことがわかる。

3. 検証の総括

GBFundの創設から5年間を振り返ると、当初の目標を大きく上回る寄付と、迅速かつ柔軟な助成制度の設計と運用により、東日本大震災の被災地の芸術・文化活動に大きく貢献することができた。心理学や精神医学では、精神的回復力、復元力、自発的治癒力といった意味のレジリエンス(resilience)という言葉がある。芸術・文化が震災後に果たした役割は、人間と地域のレジリエンスであった。そして芸術・文化によるクリエイティビティが、震災後の地域課題に向き合う原動力となってきた。それは、「芸術・文化による人や地域の再生と復興」であると同時に、「人や地域による芸術・文化の再生と復興」でもあるのだ。

「災害大国」と言われる我が国では、これからも大きな災害と向き合っていかなければならない。そのたびに「私(たち)には何ができるのか」を考えるだろう。5年前よりも大きな確信を持っていえることは、災害に対して、いや、社会に対して、「芸術・文化に、できることが、ある」ということだ。GBFundの5年間で、そのことを私たちに教えている。

※検証は第1回～第12回選考委員会(2011年～2015年5月)までの採択結果に基づいて行っている。

アンケート調査結果

GBFund

検証アンケート調査

調査期間：

2015年8月7日～9月30日

調査対象：

GBFund採択活動団体195団体

239採択活動

回答数：

180件

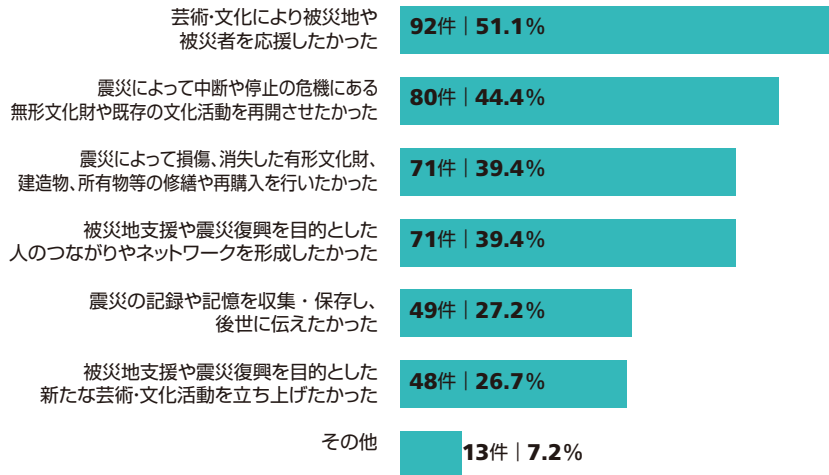
回答率：

92.3%

申請の動機

GBFundへの申請の動機について複数回答で聞いたところ、「芸術・文化により被災地や被災者を応援したかった」が51.1%で最も多く、「震災によって中断や停止の危機にある無形文化財や既存の文化活動を再開させたかった」(44.4%)、「被災地支援や震災復興を目的とした人のつながりやネットワークを形成したかった」(39.4%)と続いている(図表1)。

図表1 ● GBFundに申請しようと思った動機について、お聞かせください。[複数回答]



最も大きな動機について“一つだけ”回答を求めたところ、「震災によって損傷、消失した有形文化財、建造物、所有物等の修繕や再購入を行いたかった」が26.1%、「震災によって中断や停止の危機にある無形文化財や既存の文化活動を再開させたかった」が19.4%となっており、有形・無形の文化財の保存や再開は、他の選択肢と比べて、より強い切実さがうかがえる。



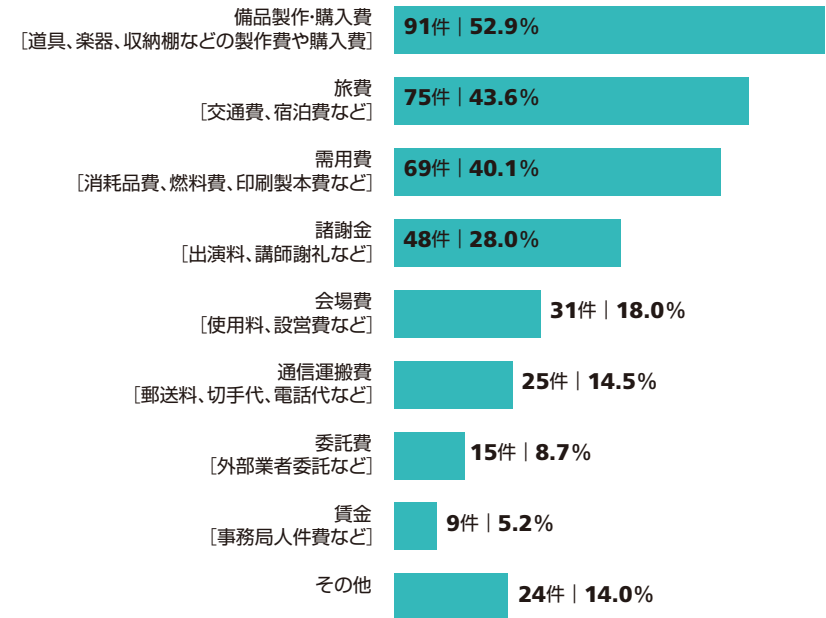
芸術写真として撮る被災地

写真：橋佐文野

助成金の使途

GBFundを活用した費目では「備品製作・購入費(道具、楽器、収納棚などの製作費や購入費)」が52.9%で最も多く、次いで「旅費(交通費、宿泊費など)」(43.6%)、「需用費(消耗品費、燃料費、印刷製本費など)」(40.1%)が多い(図表2)。

図表2 ● どのような費目にGBFundの助成金を活用しましたか。[複数回答]



最も大きな比重を占めた費目について選択肢から“一つだけ”回答を求めた設問でも、「備品製作・購入費(道具、楽器、収納棚などの製作費や購入費)」(40.1%)が最多となった。震災によって損傷、消失したものの購入や修繕にかかる経費の優先順位の高さがうかがえる。

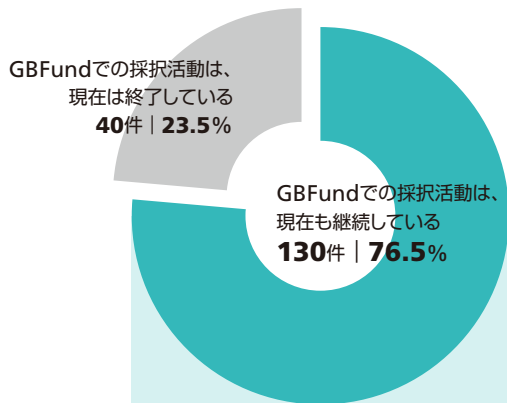


大槌・向川原虎舞復興プロジェクト
向川原虎舞風虎会

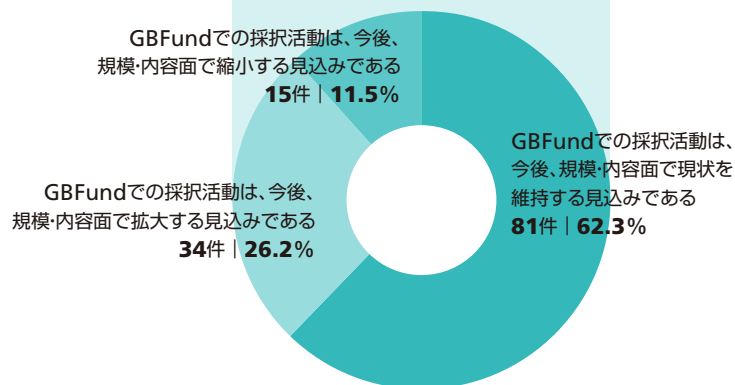
活動状況

GBFundに採択された活動が、震災以前から活動を継続していたのか、震災以降に活動を開始したのかを聞いたところ、「震災以前から活動を継続していた」が70.2%、「震災以降に活動を開始した」が29.8%となっており、その活動を「現在も継続している」団体が76.5%となっている(図表3-1)。「現在も継続している」と回答した団体に、今後、どのような変化が見込まれるか尋ねたところ、「今後、規模・内容面で現状を維持する見込みである」が62.3%、「拡大する見込みである」が26.2%となっている(図表3-2)。

図表3-1 ● GBFundの採択を受けた活動は、現在も継続していますか。それとも終了していますか。[単一回答]



図表3-2 ● GBFundの採択活動は、今後、どのような変化が見込まれますか。[単一回答]



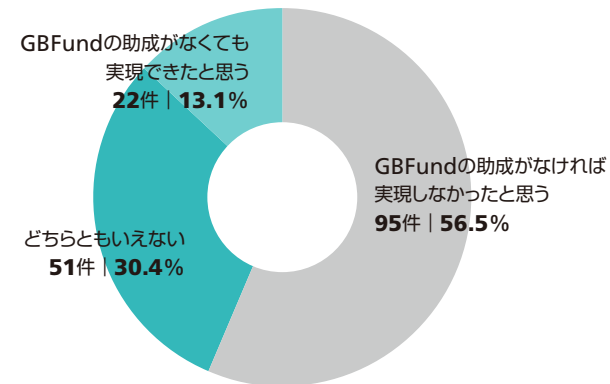
助成金比較・効果

GBFundに申請した活動で、GBFund以外に助成金等の申請をしたかを尋ねたところ、「GBFund以外の助成金等に申請をした」が57.4%で、過半数となった。「GBFund以外の助成金等に申請をした」団体のうち、「GBFund以外の助成金等に採択された」団体が88.2%だった。GBFundで採択されていなかった場合、活動はどのようになったかを探ったところ、「GBFundの助成がなければ実現しなかったと思う」との回答が56.5%と過半数を占めた(図表4)。被災地での芸術・文化活動を絶やすことなく、将来へと受け継ぐためにGBFundが果たした役割の大きさがうかがえる。



水戸の復興に祈りをこめて水戸芸術館専属楽団メンバーと水戸の若者たちによるコンサート
[公財]水戸市芸術振興財団

図表4 ● GBFundで採択されていなかった場合、活動はどのようになったと思いますか。[単一回答]



ARTS for HOPE

事務局の対応

GBFundに申請してから助成金の受け取り、完了報告書までの企業メセナ協議会の事務対応については、「申請から助成金の受け取りまでスムーズだった」という、事務手続きの簡易さ、迅速さ、フレキシブルさに対する好評価が非常に多い。また「対応が親切丁寧で励ましを受けた」「不明な点や質問に分かりやすく説明していただいた」「支援者と被災者の立場をよくご理解いただいた」といった、申請者・被災者への気持ちの寄り添いに対する感謝の言葉など、事務局担当者の誠実な対応がうかがわれる。また、企業メセナ協議会からの「活動の内容そのものへの理解」への評価も高い。

震災復興や災害における芸術・文化の可能性

震災復興や災害における芸術・文化の可能性についての自由記述による設問では、各団体の活動経緯、現在の状況などにより、多様な回答が見られる。

緊急事態を脱した段階以降の「心のケア」や「癒し」として必要とされるものであるとのコメントが多数寄せられている。また、不便を強いられる被災地の生活の中で、文化的な体験を通して「大きな心の傷を受けた子どもや大人たちにとって、自分自身を取り戻す貴重な機会」「厳しい状況であるからこそ、創造的な時間がとても大切であることを実感」など、震災後の早い段階で芸術・文化が被災者の精神的な支えとして機能していた様子がわかる。その一方で、「震災により家を失い、大切な家族や身近な方を亡くした当初、三味線を弾くことを躊躇した」「震災復興の最中に太鼓をたたいてよいものかどうか?」と悩んだなど、芸術・文化を求めることへの葛藤が被災当事者の中で少なからず存在したことも見受けられる。

アンケートの中で特に顕著だったのが、郷土芸能の復活による「地域コミュニティ再生」への期待である。祭りや郷土芸能が本質的に持つ「心の拠り所」という機能や「人を結び付けるパワー」は、震災により離散してしまった地域で、人々が再び集う機会を生み出した。また「小さな子どもから老人まで、共通して同じ思いで一つになれる」体験を通して、「伝統行事があることで帰る場所になれる」こと



南三陸視察(2012年3月)



[ミツバチの羽音と地球の回転]上映会
三函座リバースプロジェクト実行委員会



“生きる”博覧会2011
ENVISI

を目指し、コミュニティ再生への推進力として祭りや郷土芸能を捉えていることがわかる。

その他にも、芸術・文化のさまざまな側面が、災害時における可能性として挙げられた。「失われつつある古来の知恵を現代に活かす」ことや、この度の震災とその復興の過程において蓄積した知恵を後世に継承する媒体としての役割も意識されている。また、外国での公演など「国内だけにとどまらず活動ができた」といった、国内外に被災地の現実を発信する手段となりうる可能性が述べられた。

さらに、被災地における芸術・文化への今後の支援のあり方に言及したコメントも見受けられた。「震災復興における文化を取り戻す活動とその可能性は、ますます必要になってきている」「多くの助成金が期間限定ということを考えると、文化芸術については長丁場にわたっての助成があるとよい」など、長期的な視野での支援の必要性が指摘された。

GBFundの採択事業とその後の団体の活動

GBFundの採択事業とその後の団体の活動について、「復活した。震災前と同じような祭りの参加や活動ができるようになった」という声に加えて、「個人の寄付や他の助成金に採択され継続することができた」、「今回の活動から、東北以外の方が東北の活動に注目し、愛着をもってくれるようになった」など、活動への支持や共感が地域内外に広がっている様子がうかがえる。また、「今まで利用しなかった場所で演じるようになった」、「新しいネットワーク、新しい試みにつながった」といった、新たな活動の展開が生まれた事例もある。

その一方で、「関係者の生活環境が変化し、活動に割ける時間が減り、モチベーション、ニーズなどが失われたため、継続を断念した」といった切実な声や、「活動が海外に広がり交流・活動継続の依頼を受けたが、対応しきれず活動停止した」といった実状も見られる。また、「事業の関係者間のつながり(個人、各地の商店街など)で交流が続いている」という回答に見られるように、活動自体は終了してもネットワークが持続している事例もある。

未来を見据えたメッセージとして、「未来の地域の人々に伝える役目を果たすことができた」、「GBFundとの出会いに感謝し、支援への恩返しとして活動を続けたい」、「日本各地で災害が頻発している。震災とコミュニティの問題にアートの視点から取り組んでいく」など、力強い声が寄せられている。

文責：大澤寅雄



寄付者

インタビュー

継続して寄付をすることで、忘れていないという気持ちを届けたい

小曾根 真

ジャズピアニスト

被災地の方たちにとって、忘れられてしまうことが一番不安だと思います。だからGBFundに寄付しようと決めたとき、最初に思ったのは「継続して寄付すること」でした。「忘れないで支援を続けようとしている人間もいるから、それを信じて安心してください」というメッセージを少しでもお伝えしたかったのです。

僕は、芸術や文化はふだんの食事と同じように、生きる上で必須な栄養素だと思っています。だからどんどん自分の中に入れてほしい。そのためにいつでも手に届く範囲にあってほしい。それをGBFundでお手伝いしたいと思っています。

GBFundには、震災後間もないときから「津波で流されてしまった太鼓を復元したい」といった申請が数多く寄せられたと聞いています。お祭りや虎舞などの、地域に根付いた芸能の再開がとても大事だった。太鼓では確かにお腹がいっぱいになるわけではない、けれども何かを生み出してくれます。それは人とのつながりかもしれない。音楽は複数の人間が同時に、そして一緒にできるコミュニケーションです。人と瞬時につながる。「今この人とつながった」という感覚はものすごく大きな安心をくれます。

生きているもの同士みんなエネルギーをシェアし、五感すべてを使ってやりとりする、それが芸術です。それは生きる上で欠かせない。娯楽や消費とは違います。感性だけでなく知性を開花して、他人と比べる必要のない自分だけの宝や発見をくれるもの。心が豊かになればなるほど、生きるのが楽しくなる。みなさんが元気になる、楽しくなることを、GBFundで実現できるよう願っています。

[聞き手・構成：佐藤華名子／坂本麻里絵]



撮影：大杉隼平



友人のミュージシャンたちと共同でつくった東日本大震災の被災地を支援する「Live & Let Live」プロジェクトにより制作されたチャリティCDの売り上げを、GBFundに2011年より継続して寄付している。

寄付者一覧(2011年3月～2016年3月)

※公表可の寄付者のみ掲載

団体 [五十音順]

- アートフルゆめまつり実行委員会
- 愛知芸術文化センター「東北復興支援事業」公演会場での募金
- [財]愛知県文化振興事業団
- 愛知県立旭丘高等学校美術科
- 愛知県立芸術大学
- [株]アキラニ
- アサヒビール [株]
- 東MAXプレゼンツ第5回東日本応援チャリティライブ in 仙台
- [有]アトリエ・エビス 2013年 ゴールデンウィークワークショップ参加者一同
- [有]アトリエ・エビス 2013年サムホール展参加者一同
- [有]アトリエ・エビス 2013年 なつのワークショップ参加者一同
- [有]アトリエ・エビス 2014年 ゴールデンウィークワークショップ参加者一同
- [有]アトリエ・エビス 2014年サムホール展参加者一同
- [有]アトリエ・エビス 2014年 第9回 ATELIER EBIS omo展出品者一同
- [有]アトリエ・エビス 2014年 なつのワークショップ参加者一同
- [有]アトリエ・エビス 2015年 ゴールデンウィークワークショップ参加者一同
- [有]アトリエ・エビス 2015年サムホール展参加者一同
- [有]アトリエ・エビス 2015年 なつのワークショップ参加者一同
- アトリエミオス
- アマチュア・クライバーン参加者主催コンサート有志
- iinonahoglassgarden
- 一本松海運 [株]
- 伊藤君子ファンクラブ
- いろどり会 ([公財] 埼玉県芸術文化振興財団 職員親睦会)
- [株] インサイト
- HBS CLUB OF JAPAN
- [株] エス・シー・アライアンス
- 愛媛県県民総合文化祭会場での募金 (愛媛県文化協会)

- 演劇ユニット アクサル
- [特非] 大分県芸術文化振興会議
- オーケストラ・アンサンブル・フォルツァ
- 大阪ガスグループ “小さな灯” 運動
- 大阪文化団体連合会
- 桶川市民吹奏楽団
- 小曾根真チャリティ・プロジェクト “Live & Let Live”
- 小樽潮陵・桜陽高校演劇合同公演実行委員会
- オハナプロジェクト
- [有] おふいすべが
- 音楽集団「三頭の象」
- [公財] 花王芸術・科学財団
- [一社] 学術著作権協会
- [株] 梶本音楽事務所
- [公財] かしわざき振興財団
- [有] 和建築
- [公財] 加東市合唱祭実行委員会
- [有] カノン工房
- 川口神社
- 関西音楽舞踊会議
- [財] 岸和田市文化財団
- [有] キュウコンセプト
- くにたち市民オーケストラ吹奏楽部
- 久留米連合文化会
- 芸術集団鳳組
- [財] けやき文化財団
- コーチ・ジャパン [同]
- コミー [株]
- コンテンポラリーダンスチャリティ公演「作業灯、ラジカセ、あるいは無音」参加者一同
- [公財] 埼玉県芸術文化振興財団
- [財] 札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部
- サノフィ [株]
- サンセリテ会計事務所
- 三田市総合文化センター 郷の音ホール
- We LOVE さとのねプロジェクト
- [株] ジー・アイ・ピー

CD「むさがり唄」プロジェクト一同
 [株] 資生堂
 [株] 資生堂 企業文化部有志一同
 室内楽の午後 東日本大震災チャリティーコンサート
 2012年5月20日
 自分ができることをする会
 Japan Society Japan Earthquake Relief Fund
 昭和女子大学環境デザイン学科
 橋 倫央「フラッグのわプロジェクト」
 女子美術大学芸術学科2010年度卒業生有志
 震災復興チャリティーコンサート
 ～大阪フィルメンバーと仲間たち～実行委員会
 新宿武蔵野館来場者一同
 [公財] セゾン文化財団
 ソワレ東北
 TAIKO&ASSOCIATES/T-shirts Aid JAPAN
 [株] 太鼓正
 第24回八尾市吹奏楽フェスティバル実行委員会・
 [公財] 八尾市文化振興事業団
 大日本印刷[株]
 たまあーと創作工房
 多摩美術大学校友会
 多摩美術大学日本画小品展
 ダンスカンパニーDeux
 [株] 千草
 [株] チシマンタープライズ
 千島土地[株]
 中央電力[株]
 津軽三味線 火ノ國屋
 [公財] DNP文化振興財団
 TOA[株]「TOAトライやる・ウィークコンサート」
 手抜きBBQサークル ひらけごま
 [公財] 東京オペラシティ文化財団主催公演会場での募金
 東京現代美術画廊会議
 東京室内歌劇場
 東京建物[株]
 東京ダンスタワー
 東京・春・音楽祭
 《東京春祭》震災チャリティー・コンサート実行委員会
 [公財] 東京フィルハーモニー交響楽団
 [株] トッパンホール
 トヨタ自動車[株]
 中村ブレイス[株]
 新潟のプロ吹奏楽団を支える会
 日本オラクルOB有志の会

日本オラクル[株]社員有志一同
 日本軽気球広告[株]
 日本毛織[株]
 「ぬくもりを届けよう。ニッケ+工房からの風から」
 [公財] 日本伝統文化振興財団
 [株] ニュートン
 [株] BIRDS CERAMICS
 パー・プリシラ
 花遊びの会
 hanare
 葉山芸術祭実行委員会
 パラのまち中央区アートフェスタ実行委員会
 BALLET FOR THE PEOPLE
 Bank of America Merrill Lynch
 P3 art and environment
 ぴあの好きの集い第12回演奏会出演者一同
 ぴあの好きの集い第14回演奏会出演者一同
 東日本大震災支援チャリティーProject
 Ark出品者一同/ギャラリー戸村
 一橋大学芸術産業論プロジェクトチーム+
 「小曽根真Jazz講座」受講者
 フィルハーモニア・エテルナ
 フェスティバル/トーキョー実行委員会
 フェニックスコンサート実行委員会 [財] 新潟県文化振興財団
 深谷シネマサポーターズクラブ
 福岡学生シンフォニーオーケストラ
 福岡市民芸術祭実行委員会・[財] 福岡市文化芸術振興財団
 富国生命保険[相]
 プリズム・ミュージックウェイブ実行委員会・
 [公財] 八尾市文化振興事業団
 「フルートの広場」関西班
 フンパロウヒガシニホン
 [株] ホテルオークラ東京
 [株] みずほフィナンシャルグループ
 [株] メディサイエンスプランニング
 百草の庭・道草マーケット
 モバフ"Seeds Gallery"
 [公財] 八尾市文化振興事業団
 [株] 弥乃音
 YAMATO ART100円ショップ
 ～クリスマスボスカ展～来場者一同
 [株] UK.PROJECT/[株] ユーケーピーエム
 結の会
 油機エンジニアリング[株]
 ユニークポイント

ユニバーサルミュージック[同]
 [公財] 横浜市芸術文化振興財団 職員有志
 横浜市南区文化祭 区民創作作品展
 横浜美術館「長谷川潔展」
 ジャイアントタンポポプロジェクト賛同者一同

ヨコラボ#10 参加者一同
 Line実行委員会
 「ラバーダック」ファンの皆さま
 リオテント ジャパン[株]

個人[五十音順]

浅井紀代子	河村めぐみ	ダイキ マユミ	福井孝太郎
アサクラ サチコ	菊池敦子	タカオカ ユミコ	福川伸次
朝田恵美	喜多 爽	高辻ひろみ	福地茂雄
安部英里子	貴布根桂子	瀧田紀子	福原義春
阿部絵里子	クマクラ ミサト	竹重麻里絵	藤井慎太郎
内田 秋	倉知千里	田代富保	藤 緑
イカリ ユミコ	黒木貴士	タナカ タカコ	藤本義一
池山眞彦	黒崎八重子	田中美穂	舟橋香樹
石綿祐子	小池智子	谷川俊太郎	前田麻衣
伊勢由夫	コイヌマ カズヒサ	段上愛子	牧 阿佐美
伊藤ごころ	古河ななよ	茅根明子	松原智美
イヌヅカ ミサキ	コンノ タカシ	出塚清治	松村朋子
岩瀬可奈子	齊藤昭典	寺岡美智子	宮前美奈
岩田武司	サカグチ サトナ	戸沢 愛	本山聡平
岩本直子	作田澄子	戸沢真木子	森 未祈
宇田川雅恵	作田知樹	都丸英一	役所広司
内田洋一	佐藤規子(蓮)	仲山 恵	柳下陽子
大益知佳	佐藤文昭	奈良美智	山下龍太郎
大澤寅雄	佐藤元基	西尾京子	山吹知子
太下義之	三本松 徹	西巻正史	山元 愛
大野マリ	芝川能一	西山英恵	山本さざり
岡 真理子	島崎 大	根本ささ奈	山本真由美
荻原康子	島田京子	根本淑子	吉本光宏
奥秋清治	嶋田恵一	箱島信一	「楽の会」清水永子
オバガフチ タマダ	清水 俊	橋本典久	渡辺和也
Olivier Charlier	清水義昭	長谷川周義	ワタナベ チトミ
Kazu Kubotera	春風亭華柳	長谷幸恵	
片山正夫	庄司 拓	原田明希子	
加藤種男	白鳥亜紀	Peter McMillan	
加藤恒夫	菅沼 稔	久石 譲	
カヤ マユミ	杉崎栄介	土方一生	
カワシム カオリ	洲崎玉代	秀島直哉	
河島伸子	鈴木史織	日比野 啓	
河津てつ子	St. Louis Osuwa Taiko	広瀬直子	
河津 緑	曾田修司	広野 順	

助成活動一覧(2011年～2015年)

活動名 団体名 [五十音順]	ジャンル	実施地域
第1回選考 2011年4月18日 [採択活動11件]		
ARTS for HOPE ARTS for HOPE	美術	岩手・宮城・福島・青森・茨城ほか
Art Revival Connection TOHOKU Art Revival Connection TOHOKU	舞踊	宮城・新潟・神奈川・岡山・福岡
上田秀一郎 光灯せし希望と祈りの太鼓プロジェクト 上田秀一郎	音楽	宮城・福島
“生きる”博覧会2011 ENVISI	美術	宮城
3.11絵本プロジェクト(被災地の子どもたちに絵本を届けよう!) 3.11絵本プロジェクトいわて	文学	岩手・宮城・青森
桜の散歩撮影会+イザワラコンサート+天野裕氏写真展「鋭潔」 [株]尚光堂	複合	宮城
飛びだすビルド!のワークショップ「ダンスでクイズ」&「ミニシアター」 ビルド・フルーガス	演劇	宮城
八戸レビュー・震災復興アーカイブプロジェクト まちづくり文化観光部 八戸ポータルミュージアム	美術	青森
水戸の復興に祈りをこめて～水戸芸術館専属楽団メンバーと水戸の若者たちによるコンサート～ [財]水戸市芸術振興財団	音楽	茨城
「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会 三浦座リバープロジェクト実行委員会	映像・音声	福島
東日本大震災 震災復興記録プロジェクト [特非]remo / 記録と表現とメディアのための組織	映像・音声	宮城

第2回選考 2011年5月24日 [採択活動14件]		
ARTS for HOPE ARTS for HOPE	美術	岩手・宮城・福島・青森・茨城ほか
アートNPOエイド [特非]アートNPOリンク	美術	鳥取ほか
いわて楽器アシストプラン いわて文化支援ネットワーク	音楽	岩手
三クエントリオ・ジャズコンサート オフィスヨコタ	音楽	宮城・福島
震災復興支援♥心をつなぐアートプロジェクト [特非]芸術資源開発機構 (NPO ARDA)	美術	宮城
ココロ寄席 [有]コンテンツ計画	その他	岩手・宮城・福島
Play Kenji 宮城県ツアー Theatre Group “OCT/PASS”	演劇	宮城
「海に沈んだ写真の記憶」短編ドキュメンタリー TimeRiver Pictures [株]	映像・音声	宮城・東京
デイリリー・アート・サーカス 2011 デイリリー・アート・サーカス2011事務局	美術	岩手・宮城・福島・東京・大阪ほか
100人の笑顔を届けるプロジェクト [特非]DoTankみやぎ「地域政策研究行動会議」	美術	宮城
TohokuCraft TohokuCraft	生活芸術	宮城
にこにこスマイルプロジェクト [株]ドラムカフェジャパン	音楽	岩手・宮城・福島
プロジェクト FUKUSHIMA! プロジェクト FUKUSHIMA!	複合	福島
TOST LibHUB	複合	宮城・東京

第3回選考 2011年6月16日 [採択活動12件]		
あるくと出前部 アートリバイバルコネクション東北	演劇	宮城
被災地支援「舞台芸術鑑賞&交流プロジェクト」 [株]アンクリエティブ	複合	岩手
がんばろう石巻!応援コンサート [財]石巻市文化スポーツ振興公社	音楽	宮城
仰山流笹崎鹿踊装束一式 仰山流笹崎鹿踊保存会	郷土芸能	岩手・大阪
小淵浜の獅子舞復活プロジェクト 小淵浜の獅子舞復活プロジェクト	郷土芸能	宮城
「希望の鼓」雄勝中学校和太鼓支援プロジェクト [有]3D-FACTORY	音楽	宮城
東日本大震災 被災郷土芸能復興プロジェクトin大船渡・越喜来 [社]全日本郷土芸能協会	郷土芸能	岩手
TSUMUGUプロジェクト～じゃんがらを紡ぐ～ TSUMUGUプロジェクト実行委員会	郷土芸能	福島
東北九州 プロジェクト 東北九州プロジェクト実行委員会	美術	福島・長崎・熊本・鹿児島
震災孤族を防ぐ ジャズコミュニティ・カフェプロジェクト 野毛地区街づくり会 事業推進委員会	音楽	岩手・神奈川
MMIX 復興支援プロジェクト-3.11メモリアルプロジェクト [-社]MMIX Lab	美術	宮城
八幡大神楽(山田祭りへの参加) 八幡大神楽	郷土芸能	岩手

第4回選考 2011年8月4日 [採択活動23件]			
石巻震災土蔵修復工事 石巻若宮丸漂流民の会	文化財・歴史的建造物	宮城	
石巻ワンダー横丁 ～アートとハートのコミュニティー～ 石巻ワンダー横丁	美術	宮城	
エル・システム無償の音楽教室岩手 エル・システム無償の音楽教育推進協会福島	音楽	岩手・福島	
門中組虎舞復興事業 門中組振興会	郷土芸能	岩手	
うごく七夕・川原七夕祭組復興プロジェクト 川原七夕祭組	郷土芸能	岩手	
南三陸町・行山流水戸辺鹿子躍復興プロジェクト 行山流水戸辺鹿子躍保存会	郷土芸能	宮城	
負けねえぞ、黒森神楽! in 宮古 黒森神楽保存会	郷土芸能	岩手	
いわき総合高等学校演劇部「Final Fantasy for XI.mar.MMXI」東京公演 五反田団・アトリエヘリコプター	演劇	東京	
三陸海の盆 「三陸海の盆」実行委員会 (特非) 遠野まごころネット事務局内)	郷土芸能	岩手	
多賀城 万葉復興祭・「万葉の灯」(鎮魂祭)・アラハバキの灯(希望祭) [社]塩釜青年会議所	郷土芸能	宮城	
社人会復興事業 社人会	郷土芸能	岩手	
小鍬神社復活祭 城山虎舞	郷土芸能	岩手	
民俗芸能保存会調査 たびれっし推進協議会	郷土芸能	岩手・宮城	
被災文化財(文書等)の復旧支援 東京文書救援隊	文化財・歴史的建造物	宮城	
荒井良二とふらつくしっぴ 東北芸術工科大学	美術	宮城	
永浜鹿踊り保存会事業 永浜鹿踊り保存会	郷土芸能	岩手・アラブ首長国連邦	
「Referendum——国民投票プロジェクト」 Port B	美術	福島・東京	
宮城県楽器BANK 宮城県吹奏楽連盟	音楽	宮城	
東日本大震災を語り継ぐために、被災体験を語り、聴き、胸に刺すついで みやぎ民話の会	文学	宮城	
大槌・向川原虎舞復興プロジェクト 向川原虎舞風虎会	郷土芸能	岩手	
東日本大震災復興支援上映プロジェクト「ともにある Cinema With Us」 [特非]山形国際ドキュメンタリー映画祭	映像・音声	岩手・宮城・福島・東京・京都ほか	
「四倉ねぶた」の復興支援 [特非]よつくらぶ	郷土芸能	福島	
被災地の再生に向けた民間歴史資料の救出・修復プロジェクト 歴史資料ネットワーク	文化財・歴史的建造物	宮城	

第5回選考 2011年12月13日 [採択活動28件]			
悪魔祓い、八坂神社例祭(復興祈願祭) 明土権現	郷土芸能	岩手	
石巻ロックフェス2012 石巻ロックフェス実行委員会	音楽	宮城	
映画「なみのこえ」製作 映画「なみのこえ」製作委員会	映像・音声	宮城	
大浜の獅子振り・春祈禱復興プロジェクト 大浜地区青年部八日会	郷土芸能	宮城	
片岸虎舞復活祭(片岸虎舞復興プロジェクト) 片岸虎舞保存会	郷土芸能	岩手	
長唄三味線に親しむ会 杵家会金石支所	音楽	岩手	
2012 堤橋登り窯再生プロジェクト 建築と子供たちネットワーク仙台	文化財・歴史的建造物	宮城	
光大寺三匹獅子舞復活事業 光大寺三匹獅子舞保存会	郷土芸能	福島	
歴史ある「氣仙」の文化を継承する「(仮称)氣仙学校」のための教材テキストの開発 [-社]実践教育訓練研究協会	文化財・歴史的建造物	岩手	
大槌稻荷神社祭典、小鍬神社祭典 城山虎舞	郷土芸能	岩手	
蛸ノ浦地域 悪魔祓い 蛸ノ浦地域公民館	郷土芸能	岩手	
いわき・神戸 高校生プロジェクト @いわき [特非]ダンスボックス	演劇	福島	
被災地の文化財レスキュー 東北芸術工科大学	文化財・歴史的建造物	山形	
TohokuCraft TohokuCraft	生活芸術	宮城	
悪魔払い、八坂神社例祭(復興祈願祭) 中赤崎獅子舞保存会	郷土芸能	岩手	
永浜の権現様復活事業 永浜契約会	郷土芸能	岩手	
釜石まつり(尾崎神社祭典) 南部藩寿松院年行支配太神楽	郷土芸能	岩手	
大船渡の紙本修復家支援を通じた地域文化及び行政史料の継承 [特非]nature center risen	文化財・歴史的建造物	宮城・東京	
東前太神楽伝承者の育成事業 東前太神楽	郷土芸能	岩手	
福島による、福島の未来の子どものための震災復興祈念の幟端「鯉 アートのほり」 福島大学 芸術による地域創造研究所	美術	福島	
プロジェクトFUKUSHIMA! オフィシャル映像記録制作 プロジェクトFUKUSHIMA! オフィシャル映像記録実行委員会	映像・音声	福島・東京	
「3.11とアーティスト：進行形の記録」 [公財]水戸市芸術振興財団	美術	茨城	
会津田島祇園祭 南会津町伝統芸能活性化実行委員会	郷土芸能	福島	
失われた風景の中に「くらの語り文庫」をー記憶の声を声の記録へー みやざくらしの語り文庫	映像・音声	宮城・福島	
大槌・向川原虎舞復興プロジェクト2 向川原虎舞風虎会	郷土芸能	岩手	
桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英会「芸術・文化課程への進学援助」 桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英英資金 事務局	その他	岩手・宮城・福島	
大槌、陸中弁天虎舞 陸中弁天虎舞	郷土芸能	岩手	
般若神社まつり 正月元旦の初踊り 両石虎舞保存会	郷土芸能	岩手	

第6回選考 2012年5月28日 [採択活動37件]

東北の子どもたちのためのアートキャンプ「森のアート海のゲイシュツ in TOHOKU」 ARTS for HOPE	美術	岩手・宮城
舞台芸術専門講座 ウォーキングARC>T Art Revival Connection TOHOKU	演劇	宮城
相川南部神楽復興プロジェクト 相川南部神楽保存会	郷土芸能	宮城
網地浜熊野神社大祭・網地浜獅子舞奉納 網地浜獅子舞保存会	郷土芸能	宮城
がんぼろう石巻 応援コンサートII 音楽アウトリーチ事業 [財]石巻市文化スポーツ振興公社	音楽	宮城
大島神社秋季祭典 磯草虎舞保存会	郷土芸能	宮城
地歌舞伎 一谷嫩軍記 気仙沼公演 一谷嫩軍記 気仙沼公演実行委員会	演劇	宮城
[2011.3.11 平成の大津波と博物館]シンポジウム [公財]岩手県文化振興事業団	文化財・歴史的建造物	岩手
つなく響き 気仙沼～柏崎 越後柏崎日本海太鼓	郷土芸能	新潟
RAINBOW JAPAN 2 遠藤一郎 RAINBOW JAPAN プロジェクト2012実行委員会	美術	兵庫・広島・鳥取・熊本
東松島市大曲浜 復興獅子舞プロジェクト 大曲浜獅子舞保存会	郷土芸能	宮城
「大室南部神楽保存会」再開及び伝承 大室南部神楽保存会	郷土芸能	宮城
夏の終わりの東京・三陸野染め旅 風の布 / ビジョン	生活芸術	岩手・宮城
北野神社大祭奉祝神楽奉納 釜谷長面尾崎法印神楽保存会	郷土芸能	宮城
久慈備前太鼓の保存保護継承活動 久慈備前太鼓	郷土芸能	岩手
天照御祖神社大祭神輿修理事業 花露社人組(賛人会)	郷土芸能	岩手
そこにあることば ―東北のいまを記録し伝える― 小森はるか + 瀬尾なつみ	美術	岩手
震災で倒壊した土蔵の再生と地域の文化復興拠点づくり 里山フィールドパーク実行委員会	文化財・歴史的建造物	新潟
震前高田市立博物館所蔵の被災民俗文化財再生のための保存修復活動 昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科文化財学研究室	文化財・歴史的建造物	岩手・青森・東京
「Shared Lines」展 仙台クライストチャーチ実行委員会	美術	宮城
女川常夜灯 [一社]対話工房	美術	宮城
下高久地区「獅子舞」映像化プロジェクト TSUMUGU プロジェクト実行委員会	郷土芸能	福島
ディリリーアートサーカス2012 ディリリーアートサーカス2012事務局	美術	岩手・宮城・福島・東京・京都ほか
次世代による「戸倉長清水鳥囃子」復興プロジェクト 戸倉長清水鳥囃子保存会	郷土芸能	宮城
長塩谷南部神楽復興プロジェクト 長塩谷南部神楽保存会	郷土芸能	宮城
八雲神社祭典・錦津見神社祭典・夏の港まつり(尾崎神社) 南部藩寿松院年行司支配太神楽	郷土芸能	岩手
分かち合うこと、想いやること ―未来のための今― (2) 東日本大震災プロジェクト Sharing as Caring: Presence for the Future(2) ハイデルベルガーコンストファアライン	美術	ドイツ
箱崎まつり・箱崎虎舞復興プロジェクト 箱崎虎舞保存会	郷土芸能	岩手
津波で損なわれた写真の修復活動 フォトサルベージの輪	映像・音声	宮城・千葉
PRAY + LIFE～ふくしまの声 PRAY + LIFE (pray for a future + life is coming back)	文学	福島
伝承芸能(虎舞)による継承活動 平田青虎会	郷土芸能	岩手
「国民投票プロジェクト 東北ツアー」 Port B	演劇	宮城・福島
盆踊りによる絆の再生と、伝統文化の次世代への継承を目的とする事業 [特非]まちづくりNPO 新町なみえ	郷土芸能	福島
本吉法印神楽復興プロジェクト 本吉法印神楽会	郷土芸能	宮城
第6回やっべし祭り やっべし祭り実行委員会	美術	岩手
被災地の再生にむけた民間歴史資料救出・修復プロジェクト 歴史資料ネットワーク	文化財・歴史的建造物	宮城・茨城
演劇「震災タクシー」とリーディング「瓦礫と菓子パン〜リストランテ震災篇」いわき連続上演 [特非]Wunder ground	演劇	福島

第7回選考 2012年11月13日 [採択活動28件]

311 東北～若葉町～アジア ART LAB OVA	美術	神奈川
I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり実行委員会	演劇	福島
気仙沼の食文化・空間の保存を手掛かりとしたコミュニティ支援活動 青山学院大学総合文化政策学部黒石研究室	生活芸術	宮城
KOBE からのエール～ともがねぼうろスティールパンコンサート in 東北 アスタ新長田スティールパン振興会 FANTASTICS	音楽	宮城
岩手県立博物館平成24年度テーマ展「いわての昭和モノがたり」 [公財]岩手県文化振興事業団	文化財・歴史的建造物	岩手
大槌町記録映画 面影地図 ―大槌の記録―(仮)の制作活動 映画制作団体 Revolving-Lantern	映像・音声	岩手・東京
気仙地方古民家再生プロジェクト [特非]N・C・S	文化財・歴史的建造物	岩手
陸前高田うごく七夕まつり 大石七夕祭組有志会	郷土芸能	岩手
大杉神社復興プロジェクト 大杉神社神輿会	郷土芸能	岩手
swimmy 太田 和美	美術	宮城
雄勝法印神楽の地元神社祭典での奉納 雄勝法印神楽復興支援会	郷土芸能	宮城
片岸虎舞復活!! 見てけろ～おらほの虎舞 片岸虎舞保存会	郷土芸能	岩手
神ノ沢鹿踊り復活計画 神ノ沢鹿踊り保存会	郷土芸能	岩手
うごく七夕・川原祭組復興プロジェクトII 川原祭組	郷土芸能	岩手
雁舞道七福神会 雁舞道七福神会	郷土芸能	岩手
仮設住宅住民との交流会 北上町女川法印神楽保存会	郷土芸能	宮城
「北上町の方言集」復刻～失ったものを数えるのではなく～ [一財]共生地域創造財団	文学	宮城
きくこと、対話のための、なみ三部制作及び上映会+トーク活動 サイレントヴォイス 有限責任事業組合	映像・音声	愛知・東京・中国・インド・イタリアほか
「みんなで元気に」 Seeds+	音楽	福島
祈りの道 気仙三十三観音霊場再興プロジェクト 社会慈善委員会 ひとさじの会	郷土芸能	岩手
大槌稲荷神社大祭、小釜神社大祭 城山虎舞	郷土芸能	岩手
女川常夜灯「迎え火プロジェクト」女川国物館 [一社]対話工房	美術	宮城
釜石まつり 及び 各種イベント 只越虎舞	郷土芸能	岩手
ドキュメンタリー映画(身分)製作上映 東京藝術大学大学院映像研究科	映像・音声	宮城・東京・神奈川・沖縄
泊権現装束・道具整備事業 泊部落会	郷土芸能	岩手
復興なみえ町十日市祭伝承文化継承事業 浪江町商工会	郷土芸能	福島
芸術写真として撮る被災地 橋佐文野	美術	宮城・福島
水浜地区「作楽神社」祭典及び春祈禱 水浜区有会	郷土芸能	宮城

第8回選考 2013年5月27日 [採択活動28件]

宮城県沿岸部の津波被災地を中心とした自分史の聞き書き活動 RQ聞き書きプロジェクト	文学	宮城
飯館村の伝統芸能継承のための支援活動 いいてまでいの会	郷土芸能	福島
被災史料から被災地の新たな歴史像を紡ぎ出す ―救出した古文書の整理プロジェクト― 茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク(茨城史料ネット)	文化財・歴史的建造物	茨城
山の手流・ココロとカラダと人をつなぐプロジェクト えすご芸術のまち創造実行委員会	演劇	宮城
大浦露露ヶ嶽神社陣太鼓保存会 大浦露露ヶ嶽神社陣太鼓保存会	郷土芸能	岩手
東日本大震災備品整備事業 尾崎青友会	郷土芸能	岩手
川口隆夫ワークショップinいわき「からだを使って実写アニメをつくろう」 からだ・つくる・あそび プロジェクト	映像・音声	福島
東北days 東北を観て食べて知る8日間 北九州お手軽劇場アイアンシアター運営実行委員会	演劇	福岡
小河原町内会の虎舞復活計画 小河原町内会	郷土芸能	岩手
堂田薬師大尊祭を存続する会 権仲青年会	郷土芸能	福島
美和太鼓 崎浜美和会	郷土芸能	宮城
仙台シアターラボ公演「透明な旗」 仙台シアターラボ	演劇	宮城・東京
祝 せんたい・宮城フィルムコミッション10周年 仙台短篇映画祭 共同企画参加型映画制作「仙台の新しい記憶をつくろう」 仙台短篇映画祭実行委員会	映像・音声	宮城
鶴住神社祭典参加 町内祭典挙行 三浦命助没150年イベント 田郷鹿踊り保存会	郷土芸能	岩手
「第28回リアス社囃まつり唐桑」 只越芸能保存会	郷土芸能	宮城

東日本大震災被災備品整備事業 田の浜大神楽保存会	郷土芸能	岩手
下高久地区「獅子舞祭礼」映像化プロジェクト TSUMUGUプロジェクト実行委員会	郷土芸能	福島
The Day OGATSU——何気ない日常が、かけがえのないその日になる—— [株]TETSU-LAW&Co.	映像・音声	宮城
TohokuCraft TohokuCraft	美術	宮城
奈奈子祭 夏の陣 奈奈子祭実行委員会	郷土芸能	岩手
西館の郷土芸能の継承に向けた住民による記録冊子の製作活動 西館公民館	郷土芸能	岩手
年行司太神楽奉納支援 年行司神楽支援実行委員会	郷土芸能	岩手・三重
分かち合うこと、想いやること——未来のための今——(3)東日本大震災プロジェクト Sharing as Caring: Presence for the Future (3) ハイデルベルガー・クンストファーライン(Heidelberger Kunstverein)	美術	ドイツ
プロジェクトFUKUSHIMA! [特非]プロジェクトFUKUSHIMA	音楽	福島
伝統芸能(虎舞)による継承活動 平田青虎会	郷土芸能	岩手
大盛岡神輿祭～宮古連陸友好の絆プロジェクト～ 盛岡八幡宮南會	郷土芸能	岩手
陸前高田「うごく七夕」山車製作事業 森前組 有志会	郷土芸能	岩手
東日本大震災復興支援上映「ともにある Cinema with Us 2013」 [特非]山形国際ドキュメンタリー映画祭	映像・音声	山形

第9回選考 2013年11月11日 [採択活動15件]		
東日本大震災被災備品整備事業 荒神大神楽	郷土芸能	岩手
荒神社例大祭 荒神社神輿会	郷土芸能	岩手
十中八九いわき渋さプロジェクト2013～2014 「いわき渋さ」実行委員会	音楽	福島
手すき和紙の新たな可能性の開発 [一社]潮紙	生活芸術	宮城
平成26年度備品整備事業 大須賀青年親交会	郷土芸能	岩手
越喜来小学校 浦浜念仏剣舞 伝承活動 大船渡市立 越喜来小学校	郷土芸能	岩手
旧米美川酒造の利活用 [特非]くるりんこ	文化財・歴史的建造物	福島
麓山神社・鶴住神社大祭の神輿渡御の御共 新神大黒舞	郷土芸能	岩手
田の浜地区八幡宮五年祭 田の浜八幡宮奉賛会	郷土芸能	岩手
TEDxTohoku 2014 TEDxTohoku	その他	宮城
雄勝波板石加工技術の伝承と壁画アートで創る未来の雄勝プロジェクト 波板地区会	生活芸術	宮城
東日本大震災復興支援「さぼうのて 2～みつた たからもの～」プロジェクト 青森八戸 東京多摩同時開催展覧会 東日本大震災復興支援「さぼうのて」プロジェクト実行委員会	美術	岩手・青森・東京
福島県立いわき総合高校演劇部 東京招聘公演 福島県立いわき総合高校演劇部 企画公演実行委員会	演劇	東京
山田祭りへの参加 山田八幡大神楽保存会	郷土芸能	岩手
小釜神社例大祭参加 四日町手踊り組	郷土芸能	岩手

第10回選考 2014年5月19日 [採択活動16件]		
飯館村の伝統文化・芸能を子ども達が継承していくための支援活動 いいたてまでいの会	複合	福島
江名諏訪神社の三匹獅子舞の次世代継承者育成にかかる取り組み 江名諏訪神社文化伝統保存会	郷土芸能	福島
郷土芸能劇 唐桑ものがたり 上演 唐桑大漁唄込復活推進実行委員会	郷土芸能	宮城
第3回 気仙沼ストリートライブフェスティバル 気仙沼ストリートライブフェスティバル実行委員会	音楽	宮城
堤町まちかど博物館 / 堤焼と堤人形の震災復興プロジェクト 建築と子供たちネットワーク仙台	文化財・歴史的建造物	宮城
気仙沼みなとまつり 打ちばやし大競演 少々汐打囃子保存会	郷土芸能	宮城
福島を自分史で書き残す活動 「3月10日」制作室	文学	埼玉
ヒューマン・セレブレーション 三陸国際芸術祭2014 [特非]ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)	郷土芸能	岩手
女川常夜灯「迎え火プロジェクト」・女川国物語「うみやまさんぼ」他 [一社]対話工房	複合	宮城
おがつの芸祭 鼓舞 チーム鼓舞	郷土芸能	宮城
島民に向けた写真展「同居湾——2013年浦戸諸島——」 つながる湾プロジェクト運営委員会	美術	宮城
歴史ある「気仙」の文化を継承する「(仮称)気仙職人学校」の伝統大工コースの試行 [特非]伝統木構造の会	文化財・歴史的建造物	岩手
第四回 三陸海の盆 [特非]遠野まごころネット	郷土芸能	岩手
なつかしい未来創造事業アーティスト・イン・レジデンスプログラム(陸前高田AIR)2014 なつかしい未来創造「株」	美術	岩手・福島・東京
「フェスティバル FUKUSHIMA!2014 納涼!盆踊り」を中心とした 「プロジェクト FUKUSHIMA!」の活動 [特非]プロジェクトFUKUSHIMA	複合	福島・北海道・東京・新潟・岐阜

YIDFF「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」プロジェクト |
[特非]山形国際ドキュメンタリー映画祭

第11回選考 2014年11月17日 [採択活動12件]			
ITPいわき演劇プロジェクト俳優養成塾 ITPいわき演劇プロジェクト	演劇	福島	
つなぐ神戸⇄東北 ともにがんばろう!スティールバンドコンサート アスタ新長田スティールバンド振興会FANTASTICS	音楽	宮城	
東北と世界を結ぶ祭博2015 大船渡復興まつり実行委員会([一社]三陸国際交流協会)	郷土芸能	岩手	
虎舞幕制作事業 門中組振興会	郷土芸能	岩手	
太鼓と絆継不足分などの購入 雁舞道七福神会	郷土芸能	岩手	
下大越獅子祭保存会 下大越獅子祭保存会	郷土芸能	福島	
気仙沼ガムラン応援プロジェクト スカルジュブン	音楽	宮城	
返礼公演 for 台湾「星空のコンチェルティエノお琴」 日本の物語制作委員会	演劇	台湾	
沼ノ内子供獅子舞 沼ノ内区	郷土芸能	福島	
第2回 3.11映画祭 [一社]非営利芸術活動団体コマンドN	映像・音声	東京	
「陸前高田学校」～被災地の文化・記憶遺産継承のための人材育成事業 文化財保存支援機構	文化財・歴史的建造物	岩手	
牡鹿半島・竹浜地区の獅子風流復活事業 MATSURI de Merci 実行委員会	郷土芸能	宮城	

第12回選考 2015年5月18日 [採択活動15件]			
甍れ朝日座 ～記憶の中に～ 朝日座を楽しむ会	複合	福島	
手すき和紙の新たな可能性の開発 [一社]潮紙	複合	宮城	
小森はるか+瀬尾夏美巡回展「波のした、土のうえ」 小森はるか+瀬尾夏美	複合	岩手・宮城・福島・石川・大阪ほか	
[うたうひと]東北上映会+「語る／聞く」場の開催 [一社]サイレントヴォイス	映像・音声	岩手・宮城・福島	
「ヒューマンセレブレーション 三陸国際芸術祭2015」 [特非]ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク	複合	岩手	
平成27年度東日本大震災被害備品整備事業 砂子畑丹内神楽	郷土芸能	岩手	
平成27年度東日本大震災被害備品整備事業 砂子畑道々虎舞	郷土芸能	岩手	
陸前高田市高田町 うごく七夕まつり 中央祭組 中央祭組	郷土芸能	岩手	
歴史ある「気仙」の文化を継承する「(仮称)気仙職人学校」の立ち上げをめざして ～「第2回気仙大工セミナー」の開催～ [特非]伝統木構造の会	その他	岩手・宮城	
港町の人と風景の写真コンテスト写真教室 中之作プロジェクト	美術	福島	
なつかしい未来創造事業アーティスト・イン・レジデンスプログラム(陸前高田AIR)2015 なつかしい未来創造「株」	複合	岩手・福島・東京	

わわ新聞2015年度発行 [一社]非営利芸術活動団体コマンドN	複合	東京
陸前高田市における図書館再建の基礎資料としての住民意識調査事業 北海道ブックシェアリング	その他	岩手・北海道
「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」および東日本大震災記録映画上映プロジェクト2015 認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭	映像・音声	山形
山田大神楽保存会 山田大神楽保存会	郷土芸能	岩手

第13回選考 2015年11月24日 [採択活動11件]			
未来は祭りの輪の中にin三陸 子ども芸能交流 浦浜念仏剣舞保存会	郷土芸能	岩手	
までの心 音楽祭 音楽による福島まち造り実行委員会	音楽	福島	
大切にしまなっきゃなんないべえ 片岸虎舞保存会	郷土芸能	岩手	
仰山流笹崎鹿踊保存会 仰山流笹崎鹿踊保存会	郷土芸能	岩手	
あーとびる変生で神楽を楽しむ 芸術村 あーとびる変生	複合	岩手	
塩竈フォトフェスティバル2016 塩竈フォトフェスティバル実行委員会	美術	宮城	
被災地の子育て・教育支援のネットワーク構築事業 / 第2回子育て交流祭り [一社]震災リゲイン	複合	宮城	
気仙沼ガムラン応援プロジェクト スカルジュブン	音楽	宮城	
TohokuCraft Hello! クラフトプロジェクト TohokuCraft	生活芸術	宮城	
弔いのための新しい聲明曲、被災地にとどけ 宮内康乃	複合	岩手	
東北リミックス 柳沢晶子	複合	岩手・宮城・青森	

※完了報告時の活動名称を記載

あとがき

GBFundを通して見えてきたこと

震

災前から抱えていた過疎、少子高齢化の社会的課題が、震災によってさらに加速された。同時にしかし、災い転じて福となす場面がまったくないわけではない。これまで郷土芸能が遠ざけてきた人々、特に女性の参加や、さらにはよそ者の参加さえも容認しなければ芸能や祭りが成立せず、コミュニティの新たな枠組みによる再生が見られる場合がある。ここには排他的なコミュニティではなく、開かれたコミュニティの創造の可能性がある。●さらなる課題は、この災害多発列島にこれまで残されてきた災害の記憶や記録の教訓が、今回の震災で十分生かされたかどうかという点である。宮城県気仙沼市にあるリアス・アーク美術館の「東日本大震災の記録と津波の災害史」展示には、津波を中心とした絵巻物等の歴史的な資料が含まれている。これらがもっと周知され、行政がこうした歴史資料を教訓に防災計画を立て訓練していたならば、防げた被害もあったのではないだろうか。同美術館は、震災直後から毎日被災現場の写真記録を残しており、瓦礫として一様にまとめられない個々のさまざまな被災物を収集し展示している。こうした記録が今後の防災に生かされて初めて、その努力が報われるであろう。●これから取り組むべき仕事は、被災物を含めた被災記録を後世に伝えるべき文化財として保存活用する仕組みづくりであろう。また、記憶の記録を含めた、被災記録のアーカイブ支援に取り組む必要があると考えている。●関係者の皆さまに感謝申し上げ、引き続きさらなるご支援をお願い申し上げます。 [公社]企業メセナ協議会 専務理事・GBFund選考委員 **加藤種男**

WEBサイトから寄付ができます。 www.mecenas.or.jp/culfun



GBFund検証チームメンバー [2016年1月27日 検証会議にて]

大澤氏をリーダーに、郷土芸能に詳しい小岩氏と公募で選定した3名を迎え、選考委員でもある加藤専務理事・事務局スタッフを加えた総勢10名からなる検証チームを2015年9月に発足。さまざまな立場から多角的な視点で検証作業を実施した。

公益社団法人企業メセナ協議会 会員一覧

正会員 [137社団体]

[特非]アートネットワークジャパン
[株]&S BBDO
[株]IHエスキューブ
[株]AOI Pro.
朝倉不動産[株]
[株]アサツディケイ
アサヒグループホールディングス[株]
[株]朝日広告社
[株]朝日新聞社
朝日放送[株]
[株]板室観光ホテル大黒屋
一航会-昭和電工グループ
[株]NHKエデュケーションナル
[株]NHKエンタープライズ
[株]NHKプロモーション
大阪ガス[株]
[株]大塚商会
[株]大林組
[株]沖縄タイムス社
[株]オンワードホールディングス
花王[株]
鹿島建設[株]
カトーレック[株]
関西電力[株]
キッコーマン[株]
キャノン[株]
京セラ[株]
グリー[株]
[株]クレディセゾン
[株]幻冬舎
[株]講談社
[株]光文社
コスモエネルギー
ホールディングス[株]
[株]サイバーエージェント
[株]産業経済新聞社
サントリーホールディングス[株]
三和酒類[株]
しずおか信用金庫
[株]資生堂
[株]シベール
清水建設[株]
[株]集英社
[株]小学館
[株]新潮社
新日鐵住金[株]

GMOインターネット[株]
[株]ジェイティービー
住友生命保険[相]
積水化学工業[株]
[公財]セゾン文化財団
全日本空輸[株]
ソニー[株]
損害保険ジャパン日本興亜[株]
大正製薬[株]
大成建設[株]
第一生命保険[株]
ダイキン工業[株]
大日本印刷[株]
[株]大和証券グループ本社
大和ハウス工業[株]
[株]竹中工務店
[株]チシマエンタープライズ
千島土地[株]
中外製薬[株]
TOA[株]
DIC[株]
テルモ[株]
[株]テレビ朝日
[株]テレビ東京
[株]電通
東京急行電鉄[株]
[株]東京国際フォーラム
東京電力ホールディングス[株]
[株]東京ドーム
[株]東京放送ホールディングス
[株]東芝
東燃ゼネラル石油[株]
[株]東北新社
[株]東横イン
凸版印刷[株]
トヨタ自動車[株]
中村プレス[株]
日清食品ホールディングス[株]
日本テレビ放送網[株]
日本電気[株]
[株]ニッポン放送
日本オラル[株]
[株]日本経済新聞社
[株]日本広告社
日本生命保険[相]
日本たばこ産業[株]

[株]ネクシィーズ
野村ホールディングス[株]
[株]白寿科学研究所
[株]博報堂
[株]原田
バイオニア[株]
[株]パソナ
パナソニック[株]
[株]パルコ
東日本電信電話[株]
東日本旅客鉄道[株]
久光製薬[株]
[株]日立製作所
[株]ファーストリテイリング
[株]フェリシモ
富士ゼロックス[株]
[株]フジタ
富士通[株]
[株]フジテレビジョン
富士フイルム[株]
ブルームバーグ・エルピー
[株]ベネッセホールディングス
[株]ベネフィット・ワン
[株]ホテルオークラ東京
[株]毎日新聞社
[株]マガジンハウス
[株]みずほフィナンシャルグループ
三井住友海上火災保険[株]
[株]三井住友銀行
三井不動産[株]
三菱地所[株]
明治安田生命保険[相]
ヤマトホールディングス[株]
油機エンジニアリング[株]
[株]吉野工業所
[株]読売新聞東京本社
LINE[株]
楽天[株]
[株]リクルートホールディングス
[株]リソー教育
[株]琉球銀行
[株]琉球新報社
[株]琉球新報社
六花亭製菓[株]
[株]ワコールホールディングス
ワタキューセイモア[株]

準会員 [33社団体]

EU-ジャパンフェスト日本委員会
茨城県
[公財]いわさきひろ記念事業団
[公財]神奈川芸術文化財団
[公財]金谷美術館
[有]カノン工房
[公財]関西-大阪21世紀協会
[公社]企業メセナ群馬
京都商工会議所
京都造形芸術大学
[公財]京都服飾文化研究財団
劇団四季
[公財]公益法人協会
[公財]埼玉県芸術文化振興財団
[公社]企業メセナ協議会
[株]シアターワークショップ
昭和音楽大学舞台芸術政策研究所
[公財]新国立劇場運営財団
[公財]せたがや文化財団
[-社]全日本ピアノ指導者協会
[公財]たましん地域文化財団
出稼会計事務所
東京都写真美術館
東京都生活文化局文化振興部
[公財]東京都歴史文化財団
[株]ニッセイ基礎研究所
[公財]日本芸能実演家団体協議会
[公財]八十二文化財団
[株]マザーズ
水と土の芸術祭2015実行委員会
[公財]水戸市芸術振興財団
[公財]山口市文化振興財団
[公財]横浜市芸術文化振興財団

個人会員 [25名]

*氏名公開可の方のみ掲載

飯島 健 石井康之 一花裕一
岩田武司 江上節子 江幡 淳
扇谷 勉 太下義之 尾崎元規
加藤種男 最首孝之 白神しのぶ
添石幸伸 巽 知代 塚本真由
永井伸和 中坪功雄 野見山 亨
坂東愛子 福川伸次 古竹孝一
横井奏子 横山利夫

[2016年5月14日現在 五十音順]